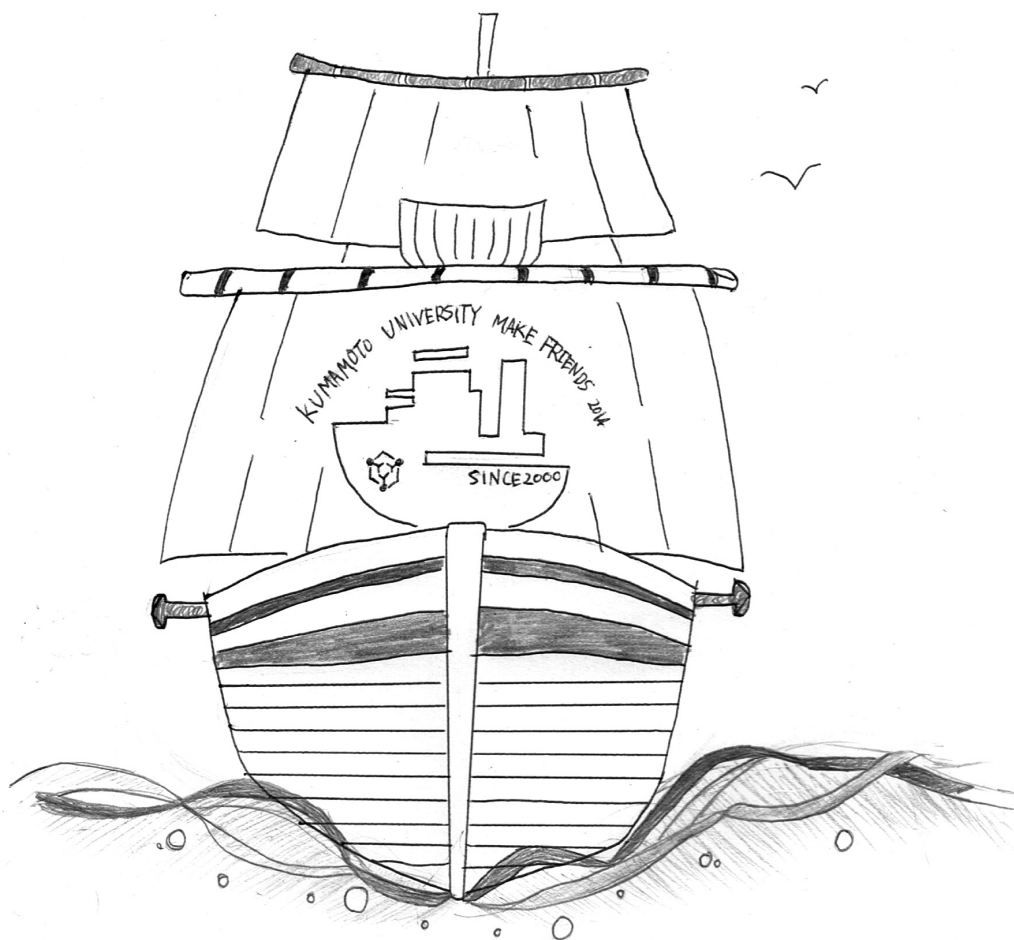


2014（平成26）年度
熊本大学教育学部フレンドシップ事業

実施・成果報告書



熊本大学教育学部
附属教育実践総合センター

2015（平成27）年3月

目 次

はじめに

- 1 熊本大学フレンドシップ事業シンポジウム・分科会 ご挨拶
..... 熊本大学教育学部長 登 田 龍 彦 1
- 2 熊本大学フレンドシップ事業シンポジウムについて
..... 教育実践総合センター長 中 川 保 敬 2

I メイクフレンズ活動の実施報告

- 1 メイクフレンズについて 3
- 2 2014（平成26）年度メイクフレンズ活動体系について
..... 熊本大学教育学部2年 津 村 征 弥 5
資料 2014年度熊本大学メイクフレンズ学生名簿 7
- 3 2014年度メイクフレンズ年間活動一覧 9
- 4 2014年度メイクフレンズ外部依頼による活動一覧 12
- 5 2014年度活動報告 14
 - (1) メイクフレンズ「五福ホール班」活動報告書
 - (2) メイクフレンズ「中央単発班」活動報告書
 - (3) メイクフレンズ「託麻単発班」活動報告書
 - (4) メイクフレンズ「大江プランナー班」活動報告書
 - (5) メイクフレンズ「東部プランナー班」活動報告書
- 6 2014年度熊本大学教育学部フレンドシップ事業シンポジウム・分科会開催要項 37

II 分科会の実施報告

- 1 メイクフレンズ学生自主企画分科会 41
- 2 実施計画 42
- 3 合同分科会の事後アンケート結果 63

III 教育実践総合センター教員からのメッセージ

- 1 学び（learning）..... 教育実践総合センター教授 中 山 玄 三 73
- 2 私も元気になりました！（14年度）..... 教育実践総合センター 吉 田 道 雄 74
- 3 平成26年度フレンドシップ事業シンポジウムに参加して思うこと
..... 教育実践センター 特任教授 長 濱 茂 喜 75

熊本大学フレンドシップ事業シンポジウム・分科会 ご挨拶

熊本大学教育学部長 登田 龍彦



皆様、おはようございます。教育学部長の登田でございます。平成26年度熊本大学フレンドシップ事業シンポジウム・分科会の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、熊本県・熊本市の社会教育機関の先生方におかれましては、お忙しい中ご出席いただきまして、誠に有り難うございます。

本事業は、教師を目指す学生が、子どもたちとのふれあいを通して、子どもたちの気持ちや行動を理解し、豊かなコミュニケーション力と実践的指導力を身につけることを目的とする教育的活動です。本活動に参加している学生諸君総てに対して、敬意を表したいと思います。中央教育審議会から平成24年8月28日に答申された「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」の中で謳われております教員に求められる資質能力の一つに、「総合的な人間力（豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力）」があります。これまで本学部が重視してきた体験型活動であるフレンドシップ事業は、正にこの教育体験そのものであり、「総合的な人間力」の修得において大きな役割を担っています。

本事業を支えるものとして、1年生を含めた約70名のサークル「Make Friends」が存在し、5班に分かれて熊本市内の五福、中央、託麻、大江、東部の5公民館の社会教育施設や熊本県生涯学習推進センター、熊本市役所生涯学習推進課と連携・協力しながら、子どもが参加する行事等の企画・運営を積極的に行っておられると聞いております。午前中にあるその活動報告が楽しみです。また、午後の分科会は、「新発見・再発見」をテーマにして、討議がなされるそうですが、活発なものになることを期待しております。今後益々、地域の教育機関と連携を強化させて頂きながら、本事業を深化させて行く必要があると思われまふ。

本日は、公民館から中川先生、江川先生、赤木先生、作本先生、穴井先生、連携協力機関から熊本県生涯学習推進センター審議員の秋山先生と熊本県生涯学習推進センター社会教育主事の佐藤先生、熊本市役所生涯学習推進課主幹の上島先生に、今年度の活動に対するコメントを頂戴することになっております。また、本日は、熊本県教育庁社会教育課長の福澤光祐先生に特別講演をして頂くことになっております。心より感謝申し上げます。

最後に、本日もご出席頂きました先生方には、フレンドシップ事業の発展のために、これまでご尽力いただきましたことに対し、厚くお礼を申し上げ、併せて今後とも変らぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、本日のシンポジウム・分科会が有意義なものになり、学生諸君の有意義な活動が益々発展することを祈念致しまして、ご挨拶とさせていただきます。

熊本大学フレンドシップ事業シンポジウムについて

教育実践総合センター長 中 川 保 敬



平成26年度の熊本大学フレンドシップ事業シンポジウムは、3月2日に教育学部3-B教室に於いて開催いたしました。本年度もメイクフレンズの活動実績報告を8名の学生の皆さんから「学びの姿勢」と「歩み寄り」の目標のもと、多くの行事を企画・運営し、貴重な活動を通して様々な人とのかかわりの中で疑問と解決への糸口を学んだことを報告していただきました。その発表後は、熊本市内5つの公民館社会教育主事の先生方から実際の班活動での努力ぶりを事例を挙げて示唆に富んだ振り返りコメントをいただき、今後の活動の方向性を示していただきました。また、連携協力機関として熊本県生涯学習推進センター及び熊本市生涯学習推進課の先生より生涯学習の視点から学生たちへの温かい支援の言葉と指導のポイントを示唆いただきました。

また、特別講演として、熊本県教育庁社会教育課の福澤光祐課長より、全国学力調査と人にわかりやすく伝えるコミュニケーション力を高めることについて、ご説明いただきました。

このフレンドシップ事業を通じた様々な体験は、子どもたちを育て、学生たちの学びを育てるすばらしい活動の場であることを実感しました。このフレンドシップ事業の今後の課題とすれば、メイクフレンズの皆さんの素晴らしい活動を更に大きく発展させていくためには、教育学部の多くの学生に参加をしていただき、体験に基づく学びの重要性を知っていただきたいと思います。さらに、地域における社会教育の現状を知る機会としても貴重な機会ではないかと強く思います。

さらに、熊本県の社会教育課長から直接の講義をいただくことでの最新情報や熊本県が取り組んでいる推進内容も理解できる貴重な機会となり、教育学部の学生にとって、学校現場の理解は不可欠ではありますが、地域で行われている教育活動や児童生徒の活動を知ることも重要なことだと考えます。このフレンドシップ事業シンポジウムは、このことを学ぶ良い機会となると考えますので、より多くの学生が参加することも期待して、次年度以降の取り組む課題としたいと思います。

最後になりましたが、本年度も一年間を通してご支援戴きました関係機関の多くの先生方に、心より感謝とお礼を申し上げます。

I. メイクフレンズ活動の実施報告

メイクフレンズについて

全国国立大学教育学部において文部科学省が推進しているフレンドシップ事業は、さまざまな体験活動を子どもたちと学生がともに行い、ふれあう中で学生が子どもたちの気持ちや行動を理解し、実践的な指導力の基礎を身につけることをねらいとしています。

メイクフレンズは、このフレンドシップ事業の一環として行われた、熊本大学教育学部の授業から発展した学生主体の活動です。メイクフレンズでは、学生である私たちが活動を企画し、そしてその活動を実践したり、そこでの体験を振り返り見直したりすることによって、「子どもを見る目」及び「子どもの考えや行動を予測した企画」のレベルを向上させることを目的としています。現在、活動の場として、中央公民館、五福公民館、託麻公民館、東部公民館、大江公民館などの社会教育施設にご協力いただき、企画・運営を含めた大学外での体験活動を行っています。



2014(平成26)年度メイクフレンズ活動体系について

熊本大学教育学部2年 津村 征 弥

本年度は熊本市の5つの公民館と提携させていただき、5班構成で活動を行った。前年度の流れを引き継ぎ、年間を通して募集により集まった子どもたちと共に活動の企画・運営をするプランナー班、学生が主体となって活動を企画・運営する単発班、ホール班として活動を行った。

今年度のメイクフレンズでは、「学ぶ姿勢」を方針として掲げている。これは学生ひとりひとりが「子ども理解」と向き合う中で得た知識や経験を基に学生間で意見を積極的に交流し、「子ども理解」に対する“新たな引き出し”や“様々な観点”を持つことができるようにするためである。メイクフレンズでは、子どもたちの反応をエピソードとして振り返り、共有している。このエピソードは同じ子どもの反応でも、学生によって捉え方が異なるため、それを共有することで「子ども理解」の幅を広げ、深めることができると考える。

さらに今年度はもう1つ「歩み寄り」という方針を立てた。現在メイクフレンズには約60名という多くの学生が所属しているため、メイクフレンズ全体での学生間の交流が困難な現状がある。ゆえにもっと他学年や他班の学生と交流する場を設け、多種多様な意見に触れ、尊重することが必要だと考えこの方針を立てた。今年度はこれら2つの方針を基に企画・活動・振り返りを行い、学生同士の交流と「子ども理解」を深めるための活動を行っている。

メイクフレンズは今年度で15年目を迎える。このメイクフレンズにとって節目の年を迎えるにあたり、今までメイクフレンズが築き上げてきたものを再確認し、そして、さらなる発展・充実のために新たな取り組みを模索し、実践していきたい。

最後になりましたが、本年度も公民館の先生方をはじめ、市や県の先生方、そして中山先生、長濱先生をはじめとする教育学部の先生方には、多大なご理解とご支援をいただきました。私たち学生は多くの方々に支えられて、メイクフレンズという場で貴重な経験をすることができています。心から感謝申し上げます。これからもご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



「学ぶ姿勢」 「歩み寄り」

○方針とは

私たち2学年は、方針とはメイクフレンズの活動を行ううえで、1人ひとりが意識しておくことと捉えた。そのうえで、やはりメイクフレンズは子ども理解を目指すサークルだということを再認識するとともに、学生間の結びつきも重視したいと考えた。それらを踏まえ2つの方針をここに提示する。

○「学ぶ姿勢」

昨年は「子ども理解と向き合う」という方針のもと、1年間個々人が「子ども理解」について考えてきた。それを活かして、今年は1人ひとりが「子ども理解」を目指し、目標を立て、企画・活動・振り返りのなかで実践していく。

そして、得た知識や経験をもとに他学生と意見を交えることで、子ども理解に対する“新たな引き出し”や“様々な観点”を持つことができると考えた。

○「歩み寄り」

メイクフレンズには現在多くの学生が所属しており、1人ひとりが多種多様な考えを持っている。そのような意見に数多く触れ、尊重し、学生間の結びつきを深めるためには班内だけでなく、メイクフレンズ全体で関わる場が必要だと考えた。

そして、学生間の結びつきが深まることにより、メイクフレンズが個々人にとっての居場所になってほしいと思う。

○方針を目指すうえで実践していくこと

・振り返りシート

新たな項目として個人の目標を振り返る欄を設ける。

⇒自らの成長を感じたり、個人の今後の課題が見つかる。

・報告会&振り返り会

報告会………活動の概要説明、ムービー（5～10分）

振り返り会…少人数グループ（異学年・他班）に分かれた後、振り返りを行った班から挙げられた議題（活動の改善点や全体で話し合いたいことなど）について各々の意見を交換する。

⇒同じ議題について意見を交えることにより、学年や班の垣根を越えて知識や経験を共有できる。

・月1レク

毎月担当の班が定例会前にレクリエーションを行う。

⇒全体で関われる貴重な場であるとともにレクリエーションを身に付けることができる。

2014年度 メイクフレンズ年間活動一覧

月	日	五福ホール	中央単発	託麻単発	大江プランナー	東部プランナー
5	31 (土)				開講式	開講式
	7 (土)				開講式	
6	14 (土)	Let'sお絵かき！ ～ぎよぎよ！水族館～				プランナー合宿 1 日目
	15 (日)			初めてのお買い物 ～目指せ！お好み焼きマス ター！～		プランナー合宿 2 日目
	21 (土)		おかしの世界へようこそ ～おかしでつくるすてきな 思い出～		プランナー合宿 1 日目	
	22 (日)				プランナー合宿 2 日目	
	28 (土)				プランナー会議	
	29 (日)					プランナー会議
7	12 (土)	ちびっ子科学者大集合！ ～君はガリレオ、僕はガリ レイ～			プランナー会議	
	13 (日)					プランナー会議
	26 (土)				プランナー会議	プランナー会議
8	3 (日)				プランナー会議	
	9 (土)	ドキドキおっぱい大作戦！ ～ちびっ子おっぱいと僕たち の夏休み～ (台風のため中止)				プランナー会議 (台風のため中止)
	10 (日)		金峰山からの挑戦状 ～君たちはたどり着けるか な？～ (台風のため中止)		あつい！プランナーのスペ シャルサマーフェスティバ ル	
	21 (木)					どこでもドアで天草の緑に 囲まれた山の大きな体育館 でみんなで学んで協力しよ う 1 日目

月	日	五福ホール	中央単発	託麻単発	大江プランナー	東部プランナー
8	22 (金)					どこでもドアで天草の緑に 囲まれた山の大きな体育館 でみんなで学んで協力しよ う 2日目
	24 (日)			みんなで作ろう☆ 託麻宇宙館		
	30 (土)				プランナー会議	プランナー会議
	6 (土)				プランナー会議	
9	13 (土)	作ろう！鳴らそう！my楽 器！～僕らの五福音楽祭～				プランナー会議
	20 (土)				プランナー会議	
	27 (土)				プランナー会議	プランナー会議
	4 (土)					
10	11 (土)	音遊び ～むかし、なつかし、いと をかし～				プランナー会議
	19 (日)				プランナー会議	
	25 (土)				阿蘇で遊ぼうカラフルキャ ンプ～大きい秋見つけた ～1日目	
	26 (日)				阿蘇で遊ぼうカラフルキャ ンプ～大きい秋見つけた ～2日目	
11	1 (土)				プランナー会議	みんな集まれ！不思議に出 会えるキラリ☆バスの旅
	15 (土)				プランナー会議	プランナー会議
	23 (日)			君が主役だ！～初めてののお 買いもの オムライス編～		
	29 (土)		きみだけのランチでおもて なし大作戦			プランナー会議
	30 (日)	風流街ロマンフェスタ				

月	日	五福ホール	中央単発	託麻単発	大江プランナー	東部プランナー
12	6 (土)				大江プランナー プランナー会議	
	13 (土)	いざ出陣！～みんなでポイ ポイ新聞紙合戦～				プランナー会議
	14 (日)				プランナー会議	
1	21 (日)				クリスマスステリーツアー 飛び出せ熊本探偵団	冬のクリスマスパーティー
	10 (土)	お年玉を取り戻せ！				
	17 (土)				閉講式	
	24 (土)					閉講式
	25 (日)			ありがとうがかくし味！ ～きょうだいのお料理大作 戦～		
2	14 (土)	こなな町に住みたいな！ ～ミニチュアタウンづくり～				
	21 (土)		冬の運動公園へ行こう！ 2015			

2014年度 メイクフレンズ外部依頼による活動活動一覧

月	日	依頼主	活動内容	活動場所
4	5	託麻南校区 8 町内子ども会	新入生歓迎会	託麻南小学校
	12	白藤ニュータウン子ども会	新入生歓迎会	白藤ニュータウン公民館
	19	託麻西小学校校区 4 町内子ども会	新入生歓迎会	託麻西小学校 公民館
	20	長嶺 3 町内子ども会	新入生歓迎会	長嶺 3 町内公民館
	29	託麻南 3 町内子ども会	お見知り会	託麻南小学校体育館
5	10	田迎南小 2 町内子ども会	お見知り会	田迎南地域コミュニティセンター
	10	砂鳥小校区 9 町内子ども会	お見知り会	熊本テルサ 2 階「さくら」
	10	桜木 2 町内子ども会	お見知り会	桜木小学校体育館
	11	田迎西 2 町内子ども会	お見知り会	田迎公民館
	11	楠 3・5 町内子ども会	お見知り会	楠小学校体育館
	11	大江小学校 16 町内子ども会	お見知り会	大江公民館
	11	砂鳥 4 町内童親会	お見知り会	市営出水団地集会所
	17	弓削 4 町内子ども会育成会	新入生歓迎会	弓削小学校体育館
	18	健軍 1 町内子ども会	お見知り会	健軍小学校体育館
	18	田迎南小 1 町内子ども会	新入生歓迎会	田迎南小学校体育館
	24	桜木東校区 4・5 町内子ども会	お見知り会	桜木東小学校体育館
	25	桜木東小学校子ども会	お見知り会	桜木東小学校体育館
6	21	弓削小学校 1 年生	弓削小学校 1 年生 親子親交を深める会	弓削小学校体育館
8	10	西原 5 町内校区子ども会	お楽しみ会	
	22～24	熊本市キャンプ協会	あそ大観峰 チャレンジキャンプ	あそ教育キャンプ場
	19～22 25	合志市教育委員会	合志市小中学校 サマースクール	合志市小中学校
9	6	弓削小学校 3 年生	レクリエーション	弓削小学校
10	25～26	熊本市青少年育成課	熊本城子どもわくわく 体験学習	熊本城
	20	託麻公民館	東区子どもチャレンジ 公民館プランナー活動	託麻公民館
11	15	城北小吹奏楽部	お楽しみ会	城北小学校多目的室、中庭
	30	龍田 6 丁目子ども会	レクリエーション	龍田小学校体育館

月	日	依頼主	活動内容	活動場所
12	7	東部公民館	わくわく東区フェスタ	東部公民館
	13	東部公民館	子ども会クリスマス レクリエーション	尾ノ上コミュニティセンター
	21	飽田公民館	南区子どもチャレンジ 公民館プランナー活動	福岡県立青少年科学館 大牟田市動物園



2014年度 五福ホール班前期 活動報告書

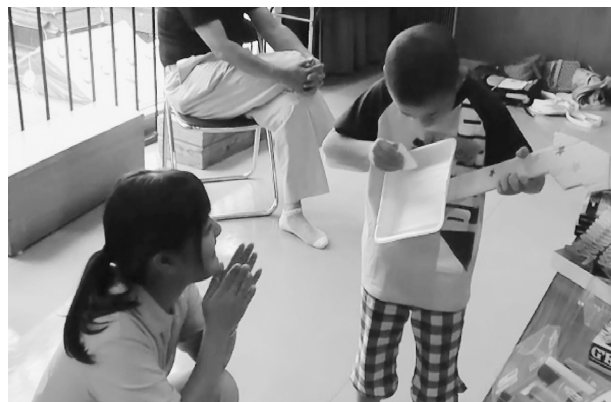
〈前期を振り返って〉

班長 2年 津 村 征 弥

前期五福ホール班は、活動に参加してくれる小学校1年生から6年生、障がいをもった子など様々な子どもたち1人ひとりが楽しんでくれる活動を作ることを方針とし、企画・運営を行った。活動内容としては、おえかき、科学実験、お化け屋敷、楽器作りの全4回の活動を企画・実施した。その中でも、特に印象に残った9月の活動について報告したい。

9月の「作ろう！鳴らそう！my楽器！～僕らの五福音楽祭～」では、子どもたちに個性あふれる楽器を作って・鳴らして・楽しんでもらいたい、という思いで企画を進めた。実際に活動においては、まず、子どもたちに楽器作りという活動にうまく入り込んでもらえるように導入としてどうぶつカスタネットづくりを行った。その後はプラスチックドラム、トレイギター、ペットボトルマラカス、ストロー笛の四つのブースに分かれ、子どもたちは各々作りたい楽器を自分なりの工夫を施しながら作成した。そして最後は音楽に合わせて楽器を鳴らし、それぞれがこだわりをもって作った楽器の音色を楽しんだ。この楽器作りの活動では、子どもたちの自由な発想や表現を引き出すために、学生は手とり足とり楽器作りを支援するのではなく、子どもたちの意見を尊重し、見た目がカラフルな楽器を作らせたり、楽器に使う材料を変えることでどんな音の変化があるのかを予想させたりする支援を行った。その結果、事前には想像できなかった個性あふれる作品を子どもたちは作成しており、子どもたちの発想力の高さや柔軟な考えに驚かされ、とても印象深い活動となった。

ホール班の活動は90分と短く、さらに参加人数や来てくれる子どもの学年も毎回わからない。そのため、参加してくれる子どもたち全員が楽しく、実りある活動を目指していくことは容易ではない。しかし、だからこそ企画の段階から子どもの姿を具体的に想像し、どんな支援や対応が適切であるのかを考えるという貴重な経験を積むことができた。なので、これからは活動で得たものを実践の場で十分に活かしていきたいと思う。



2014年度 五福ホール班後期 活動報告書

〈後期を振り返って〉

班長 2年 馬場 智弘

後期五福班では前期でつくられた方針を引き継ぎ10月に「昔遊び！～むかし、なつかし、いとをかし～」、12月に「いざ出陣！みんなでポイポイ新聞紙合戦」、1月に「お年玉を取り戻せ！」、2月に「こんなまちに住みたいな～ミニチュアタウンづくり～」の全4回の活動を行った。また11月には、毎年五福校区で行われる「風流街浪漫フェスタ」にもボランティアとして参加させていただいた。

ここでは、2月の活動である「ミニチュアタウンづくり」を取り上げる。この活動では、子どもたちに自由な発想で工作をしてもらうことを目的として企画を行った。段ボール、画用紙、牛乳パック、空き箱、トレー、折り紙など、様々な材料を用意し、学生からはなるべく街の案を出さずに子どもたちの日常経験を思い起こさせて子ども自身からアイデアをだしてもらええるような支援を行った。また、意欲的に工作を進めてもらうために子どもたちの作品に対して学生が具体的に褒めていくというような支援も行った。

活動の中では、遊園地を作りたいと発言してくれた男の子5人組みが段ボールやストローを使ってジェットコースターを作ったり、滑り台を作りたいと発言した女の子がトレーや折り紙を使って階段をうまく再現したり、活動に来てくれた子どもたち全員が自分のアイデアを具現化しようとする姿が見られ、大変うれしく思った。

今年度の活動を振り返ると、一人一人の子どもが楽しいと思えるような活動を企画段階では考えることができた。しかし、実際にいろいろな個性や特徴を持つ子どもたち全員が楽しいと思える活動をつくることは大変難しく、学生間で意見を交えることが多くあった。一人一人の子どもが楽しめる活動にするためには、学生が臨機応変に声かけをしたり、環境づくりを行ったりすることが大切だということを学んだ。今後は子どもたちが表面に出さない気持ちを表情や言動から読み取っていくように心がけていこうと思う。



2014年度 五福ホール班

前期班長 津村征弥
後期班長 馬場智弘

目次

1. 活動一覧
2. ホール班方針
3. 新しい取り組み
4. 2月の活動について
5. 成果と課題
6. まとめ

活動一覧

活動日	時間	活動名
6月14日(土)	10:00~12:00	Let'sお絵かき~ぎょぎょよ!水族館!~
7月12日(土)	10:00~12:00	ちびっ子科学者大集合!~君はガリレオ、僕はガリレイ~
8月9日(土)	10:00~12:00	ドキドキおばけ大作戦~へなちょこおばけとぼくたちの夏休み~
9月13日(土)	10:00~12:00	作ろう!鳴らそう!My楽器!~僕らの五福音楽祭~
10月11日(土)	10:00~12:00	昔遊び!~むかし、なつかし、いとをかし~
11月30日(日)	9:00~15:00	風流街ロマンフェスタ
12月13日(土)	10:00~12:00	いざ出陣!~みんなでポイポイ新聞紙合戦~
1月10日(土)	10:00~12:00	お年玉を取り戻せ!
2月14日(土)	10:00~12:00	こんな町に住みたいな!~ミニチュアタウンづくり~

ホール班方針

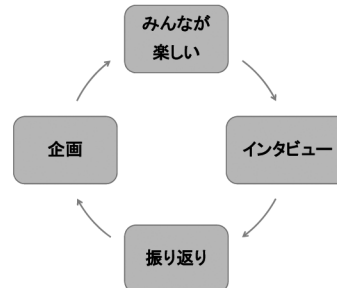
『いろんな子どもが来るホールだからこそ、
1人ひとりを楽しませる活動を目指す』

☆ホールの活動に参加してくれる子ども(小学1~6年生)
⇒いつも来てくれる子、初めて参加する子
特別な支援が必要な子

1人ひとりに合った声掛けや支援が必要
⇒「みんなが楽しい」

新しい取り組み

☆インタビュー形式



2月:こんな町に住みたいな
～ミニチュアタウンづくり～

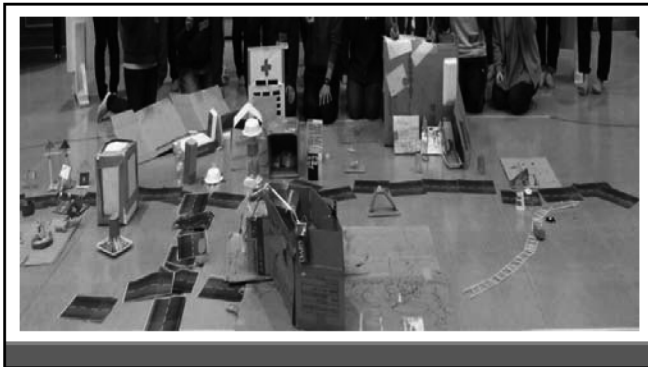
目的:みんなで自由にまちをつくらう

活動内容

1. 導入(10分)
2. 工作活動(45分)
3. まちづくり(10分)
4. 鑑賞会(5分)

活動中の支援

- ・インタビュー
- ・声掛け

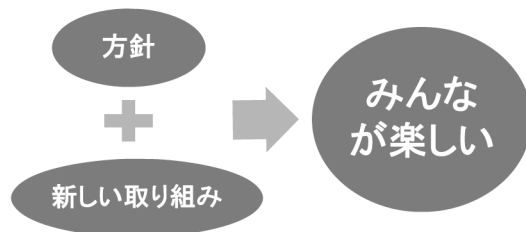


成果

課題

- | | |
|---------------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 子どもが活動に入り込める | <input type="checkbox"/> 発問の意図 |
| <input type="checkbox"/> 子どもの考えがわかる | <input type="checkbox"/> 発問の工夫 |
| ⇒子ども目線の活動 | |
| <input type="checkbox"/> 子ども理解 | |

まとめ



2014年度 中央班前期 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 野田 雅 大

前期中央班では、6月に「おかしの世界へようこそ～おかしでつくるすてきな思い出～」、8月に「金峰山からの挑戦状～君たちはたどり着けるかな?～」の2つの活動を企画した。

「おかしの世界へようこそ」は、子どもにとって初めてを経験してほしいという思いから、記憶に残る・魅力のある活動を目指した。今回は、おかしの家が完成した!できた!などの達成感を味わうことを目指し、その達成感を高めるために、一人よりも「みんなで」おかしの家を作ること、そしてその達成感を「みんなで」共有することなどを軸として、活動を企画した。活動は、班ごとにおかしの家のご設計図を作り、一人一面の壁を作って一つの家を完成させた。子どもたちは、初めてすることに戸惑いながらも、おかしの家が完成した時には「やった」「できた」という姿を見ることができた。活動を通して、班ごとの「みんなで」にこだわったからこそ、おかしの家のご完成の合図として旗を立てたときに、「みんなで」喜ぶ姿、達成感を味わう姿につながったと思う。

「金峰山からの挑戦状」は、6月の活動と同様に「達成感」を軸として、活動を企画した。前回の活動も生かして、「達成感」を得るためにはどうすればよいかを話し合い、その結果「困難なことを協力して乗り越えること」を手段とした。金峰山のウォークラリーコースを子どもたちが班ごとに歩く中で、長く険しい道のりを歩きぬくことに加え、チェックポイントでは難易度にこだわり子どもにとって「困難なこと」を企画した。子どもが自然と「協力する」姿を見るためにチェックポイントでは、一人ではできないこと、班で話し合うことなどができるようにした。天候のため、実施することは出来なかったが、活動に向けて班で話し合いを通して学んだことをこれからは活かしていきたいと思う。

2つの活動はどちらも「達成感」を目指し企画を行った。これからも子どもたちにとって、より良い活動とは何かを考えていきたい。



2014年度 中央班後期 活動報告書

〈後期を振り返って〉

班長 2年 野田 雅大

後期中央班では、11月に「きみだけのランチでおもてなし大作戦」、2月に「冬の運動公園へ行こう！」の2つの活動を企画した。

「おもてなし大作戦」は、子どもたちが料理をすることで「自信」を得て、これからの料理をするきっかけにつながってほしいという思いから活動を企画した。子どもたちが「自信」を得るために、今回は「誰かのために作り、その人からの反応をもらうこと」と「自分1人で作りきること」を企画の中で重視した。活動では、おもてなしシートを準備し、誰に作るのか、どうなってほしいのかを考えた。調理においては、子どもたちはハンバーグのプレートを自分1人で作りきることにこだわった。そのため、保護者の方と一緒に食べている子どもたちの姿は誇らしげで、嬉しそうな表情を見ることができた。活動の最後には、一人前の証としてのコック帽、さらには子どもたちが使ったレシピ、保護者の方からのメッセージを入れたおもてなしブックを渡し、子どもたちにとって貴重な経験になる活動ができたのではないかと思う。

「冬の運動公園へ行こう」では、初めて会った子どもたちが活動を通して共通の目的を持ち、協力を深めていくことで、結束することの良さを感じてほしいという思いがあった。活動では、子どもたちが「チーム」として動き、作戦を立てたり、連携した動きをしたりと子どもたちが協力して取り組む姿を見ることができた。後半には逃走中をベースとした内容を企画した。アイテムやルール、ミッションにおいて、子どもたちが自然と結束するために工夫したため、ハンターからチームで協力して逃げていきながら、ミッションに挑戦し、チームで出来たことを積み重ねていった。活動を通して、子どもたちはチーム内で助けあい、意見を出し合っていくなかで、初めて会った子どもたちが結束していく姿は印象に残っている。

子どもにとってより良い活動を追求していくことが、学生にとっても貴重な経験になっていることを感じた。



中央班 活動

- ・6月21日 おかしの世界へようこそ
～おかしでつくるすてきな思い出～
- ・8月10日 金峰山からの挑戦状
～君たちはたどり着けるかな？～
- ・11月29日 きみだけのランチでおもてなし大作戦
- ・2月21日 冬の運動公園へ行こう！2015

おかしの世界へようこそ

～おかしでつくるすてきな思い出～

子どもたちにとって初めてを経験する

→ 記憶に残る・魅力のある活動に

○達成感について

おかしの家が完成した！できた！

○達成感を高めるためには

一人よりも「みんなで」おかしの家を作ること

達成感を「みんなで」共有すること

おかしの世界へようこそ

～おかしでつくるすてきな思い出～

おかしの家
設計図作り

おかしの家を作る



おかしの世界へようこそ

～おかしでつくるすてきな思い出～

子どもたちにとって初めてを経験する

→ 記憶に残る・魅力のある活動に

○達成感について

おかしの家が完成した！できた！

○達成感を高めるためには

一人よりも「みんなで」おかしの家を作ること

達成感を「みんなで」共有すること

金峰山からの挑戦状

～君たちはたどり着けるかな～

○達成感について

1回目の活動の振り返りから

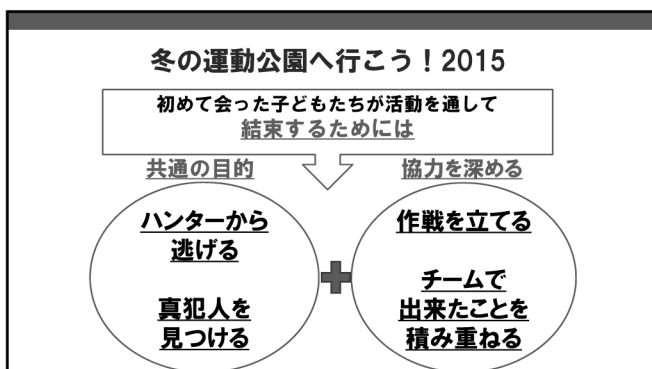
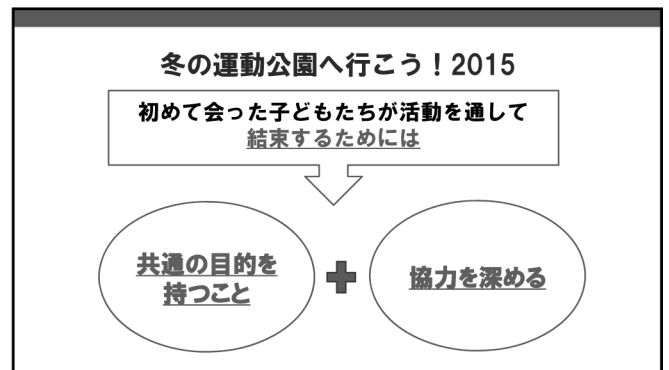
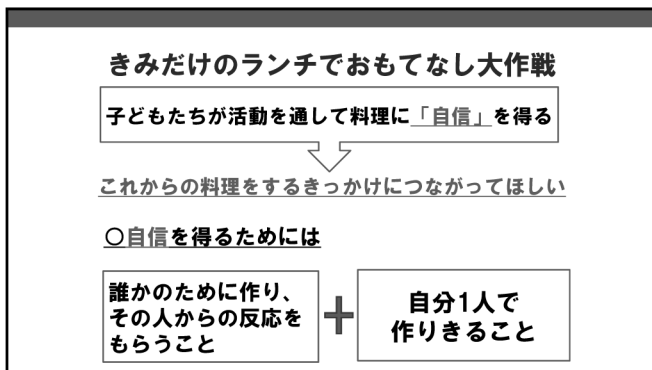
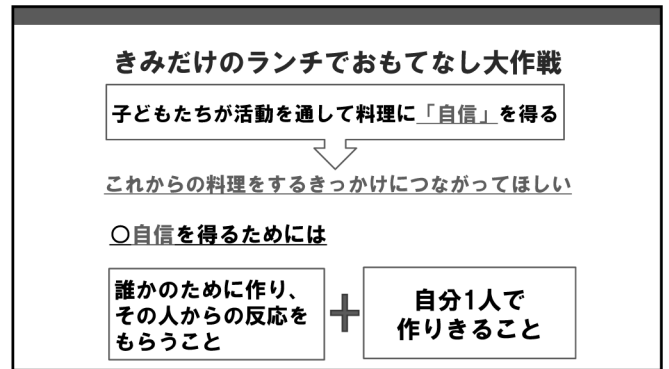
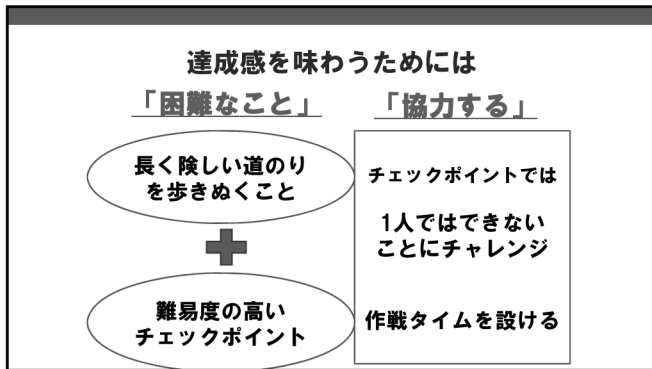
「みんなですること」だけでなく、

「難易度を上げて困難なことを乗り越えること」でも
得ることができるのでは



「困難なことを協力して乗り越えること」

⇒達成感を味わおう



2014年度 託麻班前期 活動報告書

〈前期を振り返って〉

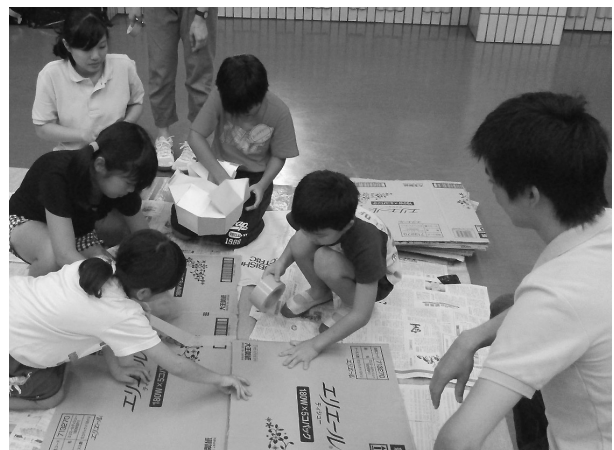
班長 2年 長屋 聖 慰

前期託麻班では、託麻公民館で6月に『はじめてのおかいもの めざせ！お好み焼きマスター!!』、8月に『みんなで作ろう☆託麻宇宙館』の2つの活動を行った。

6月の活動では、“班のみんなで考える”と“自信を持とう”の2つを目的とした。子ども達自身で決めることの出来る幅を増やし、班のみんなで考えながら買い物や調理を行うことで自信につながると考え活動を行った。行く店や買う材料、調理手順などを子ども達が相談しながら決定できる形とした。また、買い物・調理の活動を終えた後、発表会を行った。模造紙に活動を振り返りながら頑張ったところなどを書くことで活動の再確認し、発表をすることで活動の中で生まれた自信をアウトプットする場を設けた。活動後日に実際に自分でお好み焼きを作ったという手紙があったことから、活動を通して買い物や調理に自信を持ってもらえたのではないかなと思う。

8月の活動では、UFOなど宇宙に関するオブジェや飾り付けなどの工作をし、ホールを宇宙館にするという活動であった。この活動は“達成感”を目的として企画を進めた。子ども達が達成感を感じるのには、試行錯誤をしながらある目標に達することで生まれると考えた。そのために、工作の難易度のレベルを小学校3・4年生が試行錯誤出来るものに設定した。用意した小さい模型を分解することで、悩みながら解決策を出し合いオブジェを完成させる場面を見ることが出来た。活動の最後、オブジェの電飾が光った際には、子どもから歓声を聞くことができ、班や個人の作品の前に自ら移動し学生に自慢する子ども達の喜ぶ姿も見られた。

前期の活動を振り返って、単発班は学生による企画期間が長いですが、活動をするのは子ども達であり、子ども達がどう感じるのか・どう動くかなどを想像しながら企画することが重要であると改めて感じた。これからも学生同士がそれぞれの意見を尊重し合い、様々な企画をし、子ども理解を深めていきたい。



2014年度 託麻班後期 活動報告

〈後期を振り返って〉

班長 2年 金子美咲

後期託麻班では託麻公民館で11月に「きみが主役だ！～はじめてのお買い物 オムライス編～」、1月に「ありがとうがかくし味！～きょうだいのお料理大作戦～」の2つの活動を行った。2つの活動の共通点として「感謝」を目的とした。

11月の活動では、今年度で15年目となる「はじめてのお買い物」を「感謝を感じる」を目的として企画した。お買い物や調理を経験することで料理を作ってくれる人に対して感謝の気持ちを持ってほしいと考えたからだ。買い物では導入で登場した王さまのために作ることを意識させたうえで材料選びやバス代の支払いなど子どもたちに多くの経験をさせ、調理では難易度の高い料理を1人1つ完成させた。また、子どもが感謝の気持ちを持つことができたかを見る方法として手紙を書いてもらう場を設けた。子どもたちの多くは、活動を楽しみながらも買い物や調理の難しさを感じ、普段料理を作ってくれるお家の人に対して感謝の気持ちを持った様子が見られた。

1月の活動では、「感謝を伝える」を目的とし、同じ感謝の対象者を思い浮かべることができるきょうだいで参加してもらい、生地からピザを作ることと感謝の気持ちを込めたメッセージボードを作ることを行った。常に相手意識を持てるように作戦名を立て、食べに来てくれる相手からのリクエストを実現できるようにした。さらに子どもたちが工夫できるよう余地を残した結果、様々な感謝の形を見ることができた。最後のお家の方に来ていただいた食事会では、自然と「ありがとう」と伝える子どもの姿が見られたので、自発的に子どもたちが感謝を伝えることができたと思う。

後期の活動を振り返って子どもの内面的な気持ちを汲み取っていくことの難しさを感じ、学生の都合が子どもたちを制限しないように気を付けることが大切だと学んだ。また、2つの企画で子どもを2人班やきょうだいで活動させるなど新しいことをして、初めて見る子どもの姿があったり既存のやり方の大切さに気付いたりすることができた。



前期託麻班



班長 長屋聖恵

活動

- ・平成26年6月15日(日)
「初めてのお買い物
～目指せ！お好み焼きマスター！！～」
- ・平成26年8月24日(日)
「みんなで作ろう☆託麻宇宙館」

みんなで作ろう☆託麻宇宙館

- ・<対象>
小学3,4年生(11人)
- ・<目的>
試行錯誤を通して達成感を味わおう
- ・<活動内容>
オブジェ作り
全体装飾
グランドフィナーレ

目的について

～試行錯誤を通して達成感を味わおう～

達成感とは

ある一定の目標を悩みながら
達することで得られるもの



3,4年生に適した試行錯誤の出来る工作

今回の達成感

みんなで作った一つのものを見て喜ぶ姿

- ・班で頑張ったものを見て
達成感を味わう子 ➡ オブジェ作り
- ・全員で頑張ったものを見て
達成感を味わう子 ➡ 全体装飾
- ・自分で頑張ったものを見て
達成感を味わう子 ➡ 活動全体

オブジェ作り

試行錯誤のポイント①

一人ではできない課題を与える

- ・部品を多くし、完成するオブジェを大きくした
- ・ミニチュア模型と解体用模型の2つを用意



後期託麻班



班長 金子美咲

活動

- ・平成26年11月23日(日)
「きみが主役だ！」
～はじめてのお買い物 オムライス編～
⇒「感謝を感じる」
- ・平成27年1月25日(日)
「ありがとうがかくし味！」
～きょうだいのお料理大作戦～
⇒「感謝を伝える」

ありがとうがかくし味！ ～きょうだいのお料理大作戦～

- ・<対象>
小学3～6年生のきょうだい2人1組
- ・<目的>
きょうだいで目的意識を持ち、
工夫して感謝の気持ちを伝えてもらおう。
- ・<活動内容>
ピザ作り(買い物・調理)
メッセージボード作り
食事会

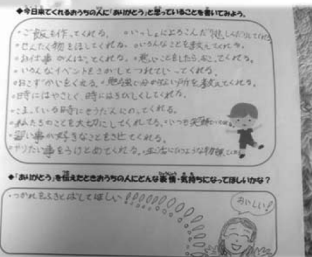
目的

きょうだいで目的意識を持ち、
工夫して感謝の気持ちを伝えてもらおう。

- ・感謝を伝える対象者(家族)を統一
⇒きょうだい
- ・きょうだいで伝えてほしい
⇒目的意識(感謝を伝えてどう思っしてほしいか)
- ・感謝の気持ちを子どもたち自身で表現してほしい
⇒工夫

家族への感謝

- ・感謝の気持ちに気付く
- ・目的意識を持つ
- ・タイトルをつける



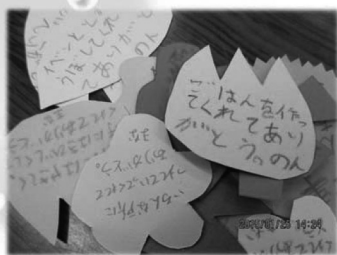
ピザ作り

- ・来てくれる家族のリクエスト
- ・最小限の材料制限
- ・自由な材料の切り方
- ・自由な盛り付け



メッセージボード作り

- ・花束のメッセージ
- ・多くの飾りつけ材料



活動を振り返って

- ・自由度の高い活動がそれぞれのきょうだいで工夫を出させることができた
- ・一回目の反省を生かしたので自ら「ありがとう」と伝える子どもの姿を見ることができた

後期託麻班を振り返って

- ・子どもの内面的な気持ちを汲み取っていくことの難しさを感じ、学生の都合が子どもたちを制限しないように気を付けることが大切だと学んだ
- ・新しいことに挑戦し、初めて見る子どもの姿があったり既存のやり方の大切さに気付いたりすることができた

2014年度 大江プランナー班前期 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 渡 辺 恭 平

前期大江プランナー班では、小学校4～6年生11人と一緒に6月の「開講式」「プランナー合宿」8月の「あつい！プランナーのスペシャルサマーフェスティバル」を行った。この前期間では、「居場所」「自覚」の2つを柱として活動を行ってきた。

「開講式」では、今年度のプランナーと初めて対面し、「これからの活動を楽しみだなー」といった声をあげる子も多く明るい雰囲気の中で式を行うことができた。

「プランナー合宿」では、金峰山少年自然の家に行きプランナー会議やレクリエーション、工作を行った。プランナー会議の中ではプランナーについて知るというテーマをもとに、プランナーには合宿中の活動の時間の内容を鬼ごっこというテーマをもとに考えてもらった。最初は少し戸惑う子もいたが、どうしたら企画が面白くなるか様々なアイデアを出してくれるようになり話し合いを活発に行うことができた。また、「ごめんねじゃんけん」「いうこといっしょ、やることいっしょ」といったレクリエーションやみんなで協力して宝物を探し出すナイトハイク、みんなの手形で大きな木を作る工作活動を行い、お互いのプランナーを知るきっかけを作った。プランナーからも「次が楽しみ」といった声上がり、今後につながる活動となった。

「あつい！プランナーのスペシャルサマーフェスティバル」では3つの屋台を企画してもらった。活動当日は初めての参加者がやってくる活動といったこともあり、緊張していたりなかなか声が出せなかったりしていた子が多かったのだが、参加者が楽しそうに企画をしている姿を見て嬉しそうにしていた。学生としてはプランナー同士や参加者との関わりにおいてさらなる具体的な支援が必要であると感じた。

この前期を振り返ってみて、「プランナーとしての基礎づくり」と「プランナー同士の関わり」の2つの大切さを感じた前期であった。これからはここまでの経験を活かしながら一人一人の単位で個性がいきるような活動を作ることができる支援をしていきたい。



2014年度 大江プランナー班後期 活動報告書

〈後期を振り返って〉

班長 2年 舟 戸 多 朗

後期大江プランナー班では、10月に「阿蘇で遊ぼうカラフルキャンプ～大きい秋見つけた～」12月に「クリスマスミステリー飛び出せ熊本探偵団」1月に「閉講式」を行った。前期の目標である「居場所」と、「自覚」にかわる「成長」の2つを柱として活動を行ってきた。

秋の活動では、「ナイトハイク」「ピザパーティー」を企画した。この活動では、プランナー同士認め合うこと、参加者を意識することを目的として行った。会議では、意見に対して賛同する声や、協力して会議を進める様子が見られた。また、参加者を意識させるために参加者に対する目標を考えてもらい、会議の中でその目標に関する発言を聞くことができた。活動当日は班のプランナー同士で役割分担し、協力して参加者を並ばせたり、注意をしたりと、認め合う姿が見られた。また、企画の中では参加者優先で活動する場面も見られた。しかし、まだプランナーとしての仕事を理解することができていない子もあり、プランナーの仕事をさらに理解するとともに、より参加者についての意識も必要だと感じた。

冬の活動では、「スタンプラリー」を企画した。この活動では、協力してみんなで一つになること、そして秋の活動に引き続き参加者を意識して活動することを目的として行った。会議はプランナー全員で行い、積極的に意見を言い合う姿が見られた。また、秋の活動で参加者と関わる中で得た経験を踏まえて、参加者を意識した発言を聞くことができた。活動当日は参加者に楽しんでもらえるような工夫をする様子が見られ、参加者を優先することや注意するなどプランナーの仕事も行うことができていた。活動の最後にはみんなで打ち上げを楽しむなど、最後にふさわしい活動となった。

「閉講式」では、仲良くなったプランナー同士で楽しみ、またこれまでの活動を振り返り自分の成長に気づくことができていた。

一年間の活動を通して、プランナーの成長を感じる一方で、個性豊かな子どもの長所をどのように生かしていくべきか悩むこともあった。今後も子ども一人ひとりのことを考え、個性を生かしていく姿勢を持ち続けたい。



平成26年度 大江プランナー班 活動報告

前期班長
渡辺 恭平
後期班長
舟戸 多朗



○プランナーとは

企画を話し合う
(プランナー会議)



企画の練習
(プレ)



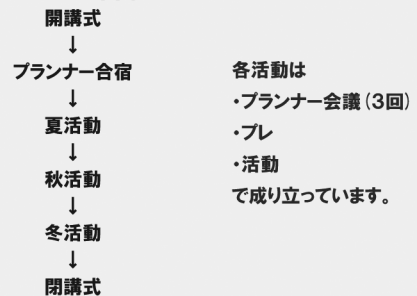
活動



プランナー班の学生について

- ・年間目標の設定
- ・年間目標に沿った支援や
企画・活動を行うプランナーのサポート

プランナーの一年間の流れ



平成26年度 大江プランナー

○対象学年 小学校4年生～6年生

- ・6年生 出水 (女子) 1人
- ・5年生 大江 (女子) 1人 出水 (男子) 2人
- ・4年生 出水 (女子) 1人 白川 (男子) 2人
帯山西 (女子) 1人 白山 (男子) 2人
託麻原 (男子) 1人 計 11人

○募集方法

- ・近隣の小学校 (大江・白川・白山・託麻原・出水・出水南・砂取・帯山・帯山西)と大江公民館でのチラシ配布

平成26年度 大江プランナー 年間目標

前期目標

「居場所」 「自覚」

★プランナーについては知ることができたのではないかな

★参加者を意識した会議・活動をしてほしい

後期目標

「居場所」 「成長」

★「意見がしっかりと見える」といった個々のスキルを身に付けてほしい

冬活動
「クリスマスミステリー
飛び出せ熊本探偵団」



○目的

<居場所>

協力して活動を行い、みんなで一つになろう

・見たい姿

→意見を言い合う姿、協力し合う姿

<成長>

参加者を意識して活動しよう

・見たい姿

→参加者を盛り上げる姿、一歩引いた行動をする姿

テーマ

「市電を使ったウォークラリー」



冬の活動を終えて

<居場所>

・円陣を組んで、みんなでがんばろう！という雰囲気をつくる
ことができた

・打ち上げでは、みんなで活動を振り返り、楽しむことができた

<成長>

・参加者と積極的に関わり、参加者優先で行動する姿も見られた

一年間の活動を振り返って

<居場所>

プランナー全員が仲良くなり、一人ひとりの個性が発揮
できる場所となっていた

<成長>

積極的に会議に参加し、意見を言い合えるようになった

2014年度 東部プランナー班前期 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 反後 彰一郎

前期東部プランナー班では、小学3～5年生のプランナー11名と、5月に「開講式」、6月に「プランナー合宿」、8月に「どこでもドアで天草の緑に囲まれた山の大きな体育館でみんなで学んで協力しよう」を行った。私たちは年間目標として「仲良し」と「周りを考える力」の2つを立てて活動を行ってきた。

「開講式」ではプランナーと初めて対面した。プランナーは複数の小学校から集まって来ていたのだが、レクなどを行って明るい雰囲気での会を行うことができた。

「プランナー合宿」では豊野少年自然の家に宿泊した。その中で、プランナーは今後の企画会議の練習として、夏の活動のタイトルを話し合った。初めての会議だったが、プランナーはそれぞれに意見を交わしながら、みんなでタイトルを考えることができた。その他にもナイトハイクや旗作りを行ってプランナーが関わる機会を増やすことで、違う小学校から集まっているプランナーが仲良くなった姿を見ることができた。

夏の活動では天草青年の家に宿泊し、プランナーは「障害物リレー」「宝探しケイドロ」の企画を行った。学生は目的として「参加者のことを考えて行動する」など3つを立て、プランナーと参加者が関わる場をより多く作っていく支援を行った。しかし、会議ではプランナーから「これじゃ参加者は楽しくないよ」など参加者を意識した発言が見られていたのに対し、当日は“今までイメージしてきた参加者”と“当日に来ている子ども”がうまく結びついていないように感じた。これは学生側が、『プランナーにとって参加者はどのような存在なのか』を明確にしていなかったことが原因である。学生で話し合い、明確化する必要があった。

前期を通して、プランナーのコミュニケーション能力の高さを強く感じた。今後は個々の仲良しを全体での仲良しに繋げていく支援をしながら、「周りを考える力」を付けていってもらいたい。



2014年度 東部プランナー班後期 活動報告書

〈後期を振り返って〉

班長 2年 反 後 彰一郎

後期東部プランナー班では、11月に「みんな集まれ！不思議に出会えるキラリ☆バスの旅」12月に「冬のクリスマス大パーティー」を行った。

秋の活動では、プランナーは福岡青少年科学館へのバスハイクを企画した。学生は活動の目的として「より参加者のことを考えて行動する」など年間目標に沿って3つを立て、あまり学生が介入しすぎず参加者とプランナーが積極的に交流していけるよう支援した。その中で「今日は是非楽しんでいってください！」という言葉や、参加者の名前を覚えようと頑張るプランナーの姿を見ることができた。夏キャンプの時以上に参加者意識を高めているプランナーを目の当たりにし、その成長の早さや意識の高さに驚かされた。

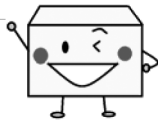
冬の活動では、プランナーは「クッキー作り」「サンターから逃走中」を企画した。学生は目的として、参加者が楽しいと思える活動を作ろうとする意識を見ていくために、「プランナーを楽しもう」など2つを立てた。プランナーとして参加者をもてなす活動は最後であるということ意識できるように支援をしていったことで、会議では今まで以上に参加者を楽しませるための工夫が見られた。当日のプランナーは、精一杯声を出して係の仕事をしたり、クッキーのレシピを丁寧に教えていたりしていた。

プランナーはこの1年間で、違う小学校から集まったメンバーにもかかわらずとても仲良くなることができ、プランナー同士を思いやった行動や、参加者のことを考えた企画ができるようになった。これは学生が年間目標として立ててきた「仲良し」「周りを考える力」の達成の姿である。プランナーは今後、この1年間で経験を学校生活の中で活かしていくことができるだろう。しかし、1年を振り返ると、プランナーの高い意識に支えられた1年間だった。そもそもプランナーは企画・活動に対してやる気を持っており、本当に学生がそれを引き出す効果的な支援ができていたかと考えると疑問が残る。今後は、もっと子どもの気持ちに寄り添い、子どもの側から考える姿勢を身につけていきたい。



2014年度 東部プランナー班 活動報告

↓とーぶちゃん



<発表者>

前期・後期班長 2年 反後彰一朗

2014年度 東部プランナー

・対象学年：小学校3年～5年生

(前期) 5年生 健軍(男)1名	(後期) 4年生 画図(女)1名、託麻西(女)1名
4年生 画図(女)2名、託麻西(女)1名	山ノ内(男)1名
山ノ内(男)1名	3年生 健軍(女)2名、健軍(男)1名
3年生 健軍(女)2名、健軍(男)1名	尾ノ上(女)1名、尾ノ上(男)1名
尾ノ上(女)1名、尾ノ上(男)1名	泉ヶ丘(男)1名
泉ヶ丘(男)1名	

計11名

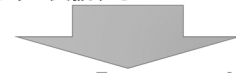
計9名

年間計画表

日付	時間	内容
5月31日(土)	10時～12時	開講式
6月14、15日(土、日)	2日間	プランナー合宿
6月29日(日)	10時～12時	会議①
7月13日(日)	10時～12時	会議②
7月26日(土)	13時～15時	会議③
8月21、22日(木、金)	2日間	夏の活動
8月30日(土)	10時～12時	会議④
9月13日(土)	10時～12時	会議⑤
9月27日(土)	10時～12時	会議⑥
10月11日(土)	10時～15時	プレ
11月1日(土)	10時～15時	秋の活動
11月15日(土)	10時～15時	会議⑦、⑧
11月29日(土)	10時～12時	会議⑨
12月13日(土)	10時～15時	プレ
12月21日(日)	10時～15時	冬の活動
1月24日(土)	10時～17時	閉講式

東部プランナー年間目標

- ・プランナーが仲良くなることができるように支援する
- ・プランナーが参加者やプランナー同士のことを思いやりながら企画を行うことができるように支援する



「仲良し」「周りを考える力」

東部プランナー年間目標

年間目標

仲良し
周りを考える力

+

プランナーの実態

会議・活動の目的、支援

開講式(5/31)



プランナー合宿(6/14・15)

会議の様子



仲良くなった姿



夏の活動(8/21・22)

タイトル: どこでもドアで天草の緑に囲まれた山の大きな体育館でみんなで学んで協力しよう
プランナー企画: 「障害物リレー」「宝探しケイドロ」



活動を振り返って

会議中: 参加者のことを意識した発言ができる

活動時: 会議中にイメージしていた参加者 ≠ 当日来ている子ども

プランナーにとって参加者はどのような存在なのか?

秋の活動(11/1)

参加者と一緒に施設見学
をするプランナー



自分達で準備した
参加賞を渡す姿



活動を振り返って

- ・「今日は是非楽しんでいってください!」という発言
- ・参加者の名前を覚えようとする姿
- ・一人一人名前を呼びながら参加賞を渡す姿

冬の活動 会議の様子

プランナー企画
「クッキーづくり」
「サンターから逃走中」

目的: ①プランナー同士で助け合い、
協力しながら活動しよう
②プランナーを楽しもう



「仲良し」

仲良くなってきたからこそ、仲間のことを思いやってお互いに助け合いながら会議・活動を行ってほしい

→ プランナー同士で助け合い、協力しながら活動しよう

「周りを考える力」

これまで以上に、プランナーの仕事に楽しみを感じてほしい

→ プランナーを楽しもう

会議中の学生の支援

- ・最後の活動であることを意識させる
- ・プランナーが企画を具体的にイメージできるようにする

活動を振り返って

- ・「参加者にサプライズして喜ばせてあげたい！」
- ・精一杯声を出して係の仕事をしている姿
- ・班の参加者一人一人の意見を聞いていく姿

プランナーの成長

夏の活動

「参加者ってどの人たちのこと？」

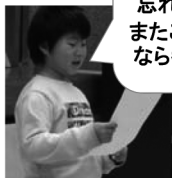
成長

冬の活動

参加者一人一人の意見をまとめる

閉講式(1/24)

すごろくで追体験



みんなと仲良くなれてよかったです。忘れないでください。またこんな活動があるなら参加したいです。

1年間のプランナーの活動を終えて



「仲良し」

- ・とても仲良くなった。
- 「周りを考える力」
- ・プランナー同士や参加者を思いやった行動



年間目標達成の姿

しかし・・・

学生は子どものやる気を引き出す支援が本当にできていたのか？



子どもの側から考える姿勢

2014年度（平成26年度）熊本大学教育学部フレンドシップ事業 シンポジウム・分科会開催要項

日時： 2015年（平成27年）3月2日（月） 9：30～16：30

場所： 熊本大学教育学部3-B教室

[午前の部：シンポジウム]

1. 開会挨拶 9:30～9:40

熊本大学教育学部長

登田 龍彦

2. メイクフレンズ活動の実施報告 9:40～11:10

(1) メイクフレンズ活動全体の振り返り

メイクフレンズ船長

津村 征弥

(2) 班活動の振り返りとコメント

メイクフレンズ「五福ホール班」班長

(前期) 津村 征弥

(後期) 馬場 智弘

熊本市五福公民館社会教育主事

中川 徳子

メイクフレンズ「中央単発班」班長

(前期・後期) 野田 雅大

熊本市中央公民館社会教育主事

江川 義友

メイクフレンズ「託麻単発班」班長

(前期) 長屋 聖慰

(後期) 金子 美咲

熊本市託麻公民館社会教育主事

赤木 一延

メイクフレンズ「大江プランナー班」班長

(前期) 渡辺 恭平

(後期) 舟戸 多朗

熊本市大江公民館社会教育主事

作本 達昭

メイクフレンズ「東部プランナー班」班長

(前期・後期) 反後彰一郎

熊本市東部公民館社会教育主事

穴井 佳典

3. 連携協力機関関係者からのコメント 11:10～11:20

熊本県生涯学習推進センター審議員

秋山 純晴

熊本県生涯学習推進センター社会教育主事

佐藤 倫子

熊本市役所生涯学習推進課主幹

上島 和美

4. 特別講演 11:30～12:20

熊本県教育庁社会教育課長

福澤 光祐

5. 修了証授与並びに閉会挨拶 12:20～12:30

熊本大学教育学部附属教育実践総合センター長

中川 保敬

6. 連携協力機関関係者との企画運営協議会 12:30～13:10

連携協力機関関係者

熊本大学教育学部教員

[昼食]

[午後の部：学生自主企画分科会 教育学部3-A・3-B教室]

7. 学生自主企画分科会 13:15～16:30

開会挨拶 分科会実行委員長

渡辺 恭平

【分科会設置の目的と目標】

目的：今回の自主企画分科会の目的は「新発見・再発見」とした。

今までのメイクフレンズの活動の中で得た経験を基に、他の船員と意見を交換し合い、自分の考えを見つめなおしたり、新たな考えを得る機会にしてほしいという思いでこの目的を設置した。

目標：今回の分科会を通して新発見・再発見した様々な観点を今後の活動の企画・実践・振り返りに活かすとともに、今期のメイクフレンズの方針である「学ぶ姿勢」を今後も意識し続けることを目標とする。

13:15～ 開会式

13:30～ 第一部意見交換（70分）

14:40～ 休憩（10分）

14:50～ 第二部意見交換（80分）

16:10～ 閉会式



Ⅱ. 分科会の実施報告



2014年度メイクフレンズ学生自主企画分科会

1. 目的 『新発見・再発見』

理由 今までのメイクフレの活動の中で得た経験をもとに、他の船員と意見を交換し合い、自分の考えを見つめ直すことや、新たな考えを得る機会にしてほしいという思いでこの目的を設置した。

目標 今回の分科会を通して発見した様々な観点を今後の企画・実践・振り返りに活かすとともに、分科会で実践した「学ぶ姿勢」を今後も持ち続けてもらいたい。

2. I 分科会で取り扱うテーマについて

第1部では、「子どもとの接し方」という共通テーマを決め、アンケートによってその中でも特に話したいことは何であるのか具体的に書いてもらった。その回答をもとに班を構成し、より深い話し合いを行えるようにした。

第2部では、1部と同様にどんな話をしたいかアンケートを取り、その集計結果を分類し4つのテーマを設定した。この4つのテーマから希望調査・具体的な内容の調査によって班構成を行った。

II 第1部のテーマについて（子どもとの接し方）

- ① 子どもの注意の仕方・叱り方
- ② 子どもと接するときに気を付けていること・工夫
- ③ 子どものやる気を引き出す方法
- ④ 子ども同士をうまくつなげる方法

- | | |
|---------|------------------------|
| 1班：① | 子どもの暴力・暴言についての対応 |
| 2班①、②、③ | 落ち着きがない子をどのように落ち着かせるか |
| 3班①、②、③ | 活動中に困ったこと、上手なひきつけ方 |
| 4班③、④ | 子どもを会議や活動に積極的に参加させる方法 |
| 5班①、②、③ | 子どもの叱り方・伝え方 |
| 6班②、③ | 活動に入らない子にどのような声掛けを行うか |
| 7班①、②、④ | 子どもに分かりやすい話し方・方法 |
| 8班①、②、④ | 子どもを注意する方法、子どもの感情を見る方法 |

実施計画

1. 時間 13:15～16:30

13:15～ 開会式

13:30～ 第一部意見交換 (70)

14:40～ 休憩 (10)

14:50～ 第二部意見交換 (70)

16:15～ 閉会式

2. テーマ

第一部：子どもとの接し方について（全班共通）

第二部

1 班：目的について

1 年：反後 克彬 鮫島優美子 松尾詩織理 上村 詠美

2 年：野田 雅大 金子 美咲

3 年：藤山 茉優

2 班：活動と目的の関係性について

1 年：山口 萌

2 年：馬場 智弘 萩島 裕士

3 年：牟田 早織 奥平萌菜美

4 年：加藤 涼平

3 班：活動と目的の関係性について

1 年：永渕 敦弥

2 年：舟戸 多朗

3 年：大隈 美央 坂本 悠 中園 知沙

4 年：田中亜由美

4 班：メイフレで学んだこと

1 年：木村佳菜美

2 年：木許 彩香 長屋 聖慰

3 年：坂崎 優平

4 年：堀川 佳穂

5班：メイフレで学んだこと

1年：清田麻里衣 倉智 菜月
2年：平部 優佳 武本 恵美
3年：松井 佳菜
4年：齊藤 李菜

6班：メイフレで大切にしたいこと・良いところ

1年：平田 彩 稲福 祐人 狭間 葵
2年：渡辺 恭平 千北 由香
3年：立山 史子
4年：松本 有加

7班：メイフレで大切にしたいこと・良いところ

1年：青崎勇太朗 高田 知佳
2年：津村 征弥 末鶴 茜
4年：加隈 里始

8班：メイフレで大切にしたいこと・良いところ

1年：藤本 りえ 廣澤 恵理
2年：反後彰一朗 土井 美佳 東 千貴
4年：村田 陽子



<p>(1)班 テーマ「子どもの行動への対応について」</p>	<p>メンバー(らむ・まっち・ガイヤ・あば・ステイッチ・わかちやん)</p>	
<p>1.議題 子どもの暴言・暴力について</p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校外だからあんまり怒りたくない。楽しんでることも捉えられる。 ・暴力からは逃げたり他のことをしたりして怒らずにかわすことが多い。 ・同級生でもなく年も若く若くして標的にしやすいのでは？ ・子ども同士の暴力はあまりない。 ・怒るときは落ち着かせてから話に入る。 ・子どもの中で学生をどんな存在と捉えてほしいのか。 ・いとこのお兄さんお姉さんみたいな立場。 ・近い存在でも甘やかしたくない。怒った後のフォローが必要。 ・活動で認めて褒めてあげるとよい。 <p>まとめ</p> <p>怒った後活動に入れなくなってしまうから、フォローが大切。活動で褒めてあげると認めてあげることが必要。</p>	<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常茶飯事のこと。 ・テンションが高く行動が抑えられなくて力づくで抑えてしまった。 ・話を聞いてくれなくて困る。 ・外での活動は特に本気で怒っている。 ・目線合わせる方がいい。 ・あえて上から怒って威圧感を与える必要もある。 ・論ずるときは、子どもに話させることが大切。「こうしたらどうなる？」「次はどうすればいい？」子どもがしゅんとならずにいい雰囲気ですればいい？ ・子どもが参加者と一緒に遊んだりしていると ・きと一緒に怒って後でプランナーだけ呼び出している。 ・おとなしい子どもはとりあえず一方的でも話しかけてみる。 ・その子自身じゃなくて他の子どもにも働きかけて話しかけると効果があることもある。 ・自分も人見知りだけほっとかかれるとさみしくなっちゃう。 ・アイズブレイクは絶対必要だと思う。 <p>まとめ</p> <p>注意する時は目線の高さを使い分けると効果的。本気で怒るときは上からでよい。子どもと目線を合わ</p>	<p>せることは論ずるとき。人見知りの子どもへはガツガツしなくてよいいけど常に気にかけてあげることが必要。</p> <p>3.議題</p> <p>目的</p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホールは一週間くらいで決めなきゃいけない。 ・プランナーは年間目標と会議ごとや活動ごとの目標がある。 ・単発は一か月くらいで考える。 ・達成すべきだけじゃなくともよい。下の子どもに合わせて上の子どもはもつと上を指す。 ・目的は子どもに伝えていきますか？ ・直接じゃないけど間接的に伝えている。 ・伝えずとも状況で目的に関わることを生み出している。 ・子どもを理由にするより、伝えてできるのかを試してみたい。 <p>まとめ</p> <p>学校のめあて≠目的であるけど間接的に子どもに伝えて活動してみたい。子どもを理由にして目的ができなかったと言いたくない。</p>
<p>2.議題</p> <p>テンションの高い子ども・人見知りの子ども</p>		

(2)班 テーマ「子どもの接し方」 メンバー(八木、you、まみお、ローサ、すずりん)

<p>1.議題 <u>言うことを聞かない子、落ち着きがない子に対しての接し方</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動前に何かあった子に対して →「どうした？」と聞き、「ここに持ち込むのはおかしくない？」と伝えると「頑張る！」と言ってくれた ・もともと落ち着きがない子 →目を合わせて2人でルール作りをする。また、悪いことをしたらそのルールを思い出させる。 →その子が低学年の場合、導入の人物を使って引き込ませる →ガツンと一言いう。何が危ないのか、外に出る前にきちんと伝える。 ・一時的に興奮している子に対して →クールダウンさせる。間を置く。座らせる。みんなが静かになるまで話さない。 <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目を見て、こっちが真剣に伝えているという姿を見せる。 ・具体的にルールを決める。 ・言うときはガツンと言うことも大事。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班付2人のうちどちらかが怒る側に。どちらとも怒ってしまわない方がいい。 ・怒った後のフロローが大切。切り替えをしつかり行う。 <p>2.議題</p> <p><u>目的で内面的なことを挙げた際、どのように子どもの気持ちははかるか</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○な姿を具体的に挙げて、それを見ることができたら目的を達成できたと感じる。 ・内面的なものは見にくい。活動をきっかけに後々感じてもらえるといい。 ・活動後にまとめのようなものをする。ふり返りを行うことで、子どもの中でそのような感情を再確認させる。 ・場づくりが大事。表情や行動で推測する。 <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画の段階で具体的な姿を挙げておく。そして、実際に見ることができた姿を共有する。 ・内面的な姿を見るためのきっかけづくり、場づくりを大事にする。また、活動後にふり返りを行い感情の再確認を行う。 	<p>全体のまとめ</p> <p>支援だけでなく、子どもの一つの表情・言動に対する引き出しを持っておくことも大切になってくる。</p>
---	---	---

(3)班 テーマ「子どもの接し方で困ったこと」

メンバー(ナイヤ、miwa、かんた、サウザー、ばる、れっきー)

<p>1.議題 <u>具体的に活動の中でみんなが困ったことについて話した</u> <u>意見</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の中で子どもを見なきやいけない場面で、女の子に「こっちに来んで」と言われた。本来にこないでほしいのか、冗談なのかわからずどうすればいいかわからなかった。 →もし子どもが何か書く活動であれば、書いたものをあとから見ればいい。子どもの行動を見ておかなければいけないときは、見る人を多くして広い目で見える。 ・自分も同じように感じる。女の子に「きもい」と言われたとき、もう他の子のところに行ったりすると、逆に向こうから来てくれることがある。本心で言っているわけではなく、かまってるほしくて言っている場合もある。 ・直接何かいやなことを言われても「ハイハイ」と受け流しているが、全体の場でそういうことをされると活動に支障が出ることもあるので他の学生に対応をお願いする。 ・「うざい」と言われたら「またまたーそんな事言っ 	<p>てー」と言う。逆に距離が近まるチャンスだと思っている。男の子は基本的に冗談だ。子どもを突き放すと逆に来てくれたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホールで導入をするとき悪党役をするとき子どもが学生にたかってしまう。 →話を聞かせるために導入にたかってくる子は他の学生が対応して、注意事項などはみんなに聞かせる ・プランナーは仲良くなるけど、逆にそれが馴染み合という悪い方向に働いてしまうことがある。 →仲良くするけど締めるところは締めないといけない。メリハリが大事。 <p>まとめ さまざまな場面で子どもへの対応に関して正解はない。その子どもの実態や活動を考えて対応していくことが大切である。</p> <p>2.議題 <u>子どもにどう怒るか、注意するべきか</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・あまりに怒りすぎると子どもも活動が楽しくなくなってしまう →他の子を褒める事で周りに気づかせることや、 	<p>いつも注意されてしまう子を褒めてあげること で褒めてもらおう喜びを感じてもらおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怒る時間と怒ったあとのリカバリーの時間がどれくらいあるかを考えておく。あまりに怒りすぎると活動自体を楽しんでももらえなくなる。 →子どもとの関係性をしっかりと築いておく必要がある。 ・ちゃんと本気で怒るだけでなく、なぜそのことがだめか子どもにも伝わるように怒ると、納得してくれる。 ・怒るときはその子だけ他の場所に連れて行って、目線を合わせて話す。自分がしたこととのせいではなく、うなっただのかを見せ、次からはどうするかを考えさせて約束する。 ・最初に子ども達に約束することで、注意するとき にそれを使って注意できる。 ・学生の中で役割を作っておくべきである。注意する役割の学生をつくることで、班付の学生よりも他の人に注意されれば、その後の班活動にあまり支障がないのではないかと。
---	---	---

<p>→1年生よりも上級生の方が子どもとの関係性が出来ているのでそういう役割を担っていくべき。 (プランナー、ホールの場合)</p> <p>まとめ 学生という立場であっても注意しなければならぬので、役割を決めて、子どもとの関係性を考えながら注意する</p> <p>3.議題 子どもに話を聞いてもらうためには</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生は先生と違い、先生であつたら話を聞いてもらえるが、学生だと聞いてもらえないことがある。 →先生のように締めるところは締めない、危険なことがあるときは特に大事。 ・ホールの活動の導入のときにどうすれば話を聞いてもらえるか →周りで聞いている学生が聞いている身振りをする →話に緩急をつける →導入の学生に絡んでくる子に学生をつける →子どもとの掛け合いを行い、みんなが参加している雰囲気をつくる ・全体の前で話をするとき、子どもに合わせて展 	<p>開を変えていけるようにしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体を見ながら話をすることで、どの子はわかっているか、どの子が分かっていないかを把握できる。 →反応が薄い子には積極的に話しかけに行く <p>まとめ 全体を見ながら話をし、子どもが惹きつけられるような話し方をする。子どもからの反応を大切にす。</p>	
---	--	--

<p>1. 議題 大人しくてなかなか活動に入り込めない子と、どう関わればいいのか</p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“なんで”活動に入り込めないかを理解しようとすることが大切 (恥ずかしいのかな、思いつかないのかな、緊張しているのかな・・・) ・たくさん話しかけて、緊張をほぐしてあげる ・認めて、励ましてあげる。勇気づけてあげる ・何に抵抗を感じているのかをさぐってみる ・やりたい！と思えるような声掛けをする ・その子の今のテンションや状態で、できることを探してあげる <p>⇒無理に一人で考えさせようとするのではなく、一緒に考えてみるなどの、その場に応じた対応</p> <p>まとめ</p> <p>学生がやってほしいことを押し付けるのではなく、子どもの気持ちを理解しようとすることが大切！その時の子どもにも合わせた対応を心掛ける。</p>	<p>2. 議題 やんちゃやで落ち着きのない子どもとどう関わったらよいか</p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無理に行動を落ち着けようとするのではなく、まず学生との関係性を築くことが大切 ⇒プライベートな部分の話をしてみる ・子どもの話を聞こうとする姿勢が大切 ・その元気の良さを生かせるようにする ・活動の最初に、ぐっと子どもの興味を引くような内容が必要 ⇒導入やアイズブレイクを利用して、学生や他の子どもたちとの関係性を築く ・活動中にメリハリをつける ⇒ここはちゃんと話を聞くところ、ここは自由にしていいところというメリハリが子どもに伝わるようにすることが大切 <p>まとめ</p> <p>子どもの話をしっかり聞いて、関係性を築くことが大切！その上で、メリハリをつけてみんなで活動できるように、声掛けや対応をしていくようにする</p>	<p>3. 議題 プランナーの会議中に、途中でゴリラのモノマネを始めてしまう子にどう対応したらよいか</p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜそのような行動をするのか考えてみる (集中力が切れた、会議がつまらなくなった ⇒ゴリラのモノマネをしてみる →みんなが笑ってくれる、うれしい) ・集中力が切れないように、こまめに休憩時間をとるようにする ・今は会議をする時間だということ、まわりに迷惑をかけてしまうことを分かってももらえるように声掛けをする ・行動を正常化してあげる ⇒ゴリラになってもいい時間をつくって、その時間に「ゴリラやって〜」とお願ひしてみる ⇒役割をあたえる ・会議に興味をもてるように、学生の位置や、進め片を工夫する <p>まとめ</p> <p>無理に行動をやめさせようとするのではない、学生の対応の仕方を考えることが大切</p>
---	--	--

<p>1.議題 子どもの叱り方 意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉遣いや口調に変化をつける どならないように (感情にまかせない) メリハリをつける (今叱っていることを分からせる) 子どもに聞く→自分のしたことに気づかせる 「いまなにをした？」 一方的ではだめ 子どもからその原因を引き出す ホールにおいてけんか 興奮状態→その場で解決できることばかりではな <p>い</p> <p>まとめ</p> <p>子どもの叱り方は、難しく悩むことが多い。 叱ることを通して、子どもにも気づかせることが大切である。そのため、感情や怖さで叱っても子どもにとってはあまり意味がない。 これからも子どもと接する中で、1人1人にあつた叱り方を模索し、経験を積んでいきたい。</p> <p>2.議題 活動自体に興味がない子・やる気がない子への対応 意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 孤立しないような学生の支援・声かけが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・やっている活動などの情報を与える その子にとってプラスになる、または魅力を伝える ・ホール→立ち寄る子も多い 活動に入ってもらいたい 端にいる子に対しては、気にかける 自分が「これをした」と思うような活動 工夫はしている→ムービーを使ってホールの空間 にいれば自動的に参加できる 工作→子どもの興味の幅が広いため、子どもが活動に入りやすい <p>まとめ</p> <p>活動に興味がない子へどのように声かけ・支援をすればよいかは班ごとによっても異なるが、その子どもも「なぜ入り込んでいないのか」ということは、活動を振り返る上でのエピソードとして重要である。どのように声かけをするかは、次の活動に興味を持たせたり、活動を作る上でみんなが楽しむことができればよりよい内容企画することを心がけた</p> <p>い。</p> <p>3.議題 子ども同士が話し合うなかでのトラブル (元気のいい子ばかりが決めるなど) についての対応 意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やりたいことができない子や意見が採用されな 	<p>った子がやる気がなくなったりする可能性がある</p> <p>る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言わせる順番を決める 司会をさせることで相手の意見を聞く機会に 学生があまり意見を言わない子に聞いたりする ・話し合いにおいては、子ども同士であるため、自分の主張が強かったりする そのなかで、周りを考える力などを求めていくの であれば学生の支援や声かけが必要 <p>まとめ</p> <p>学生同士が話し合う中でも、意見をまとめることは難しく、子ども同士が話し合うのであればなおさらのことである。適切な学生の支援や声かけをするためには、1人1人の子どものことを理解することが大事である。また、経験を通して学ぶこともあり、すべてを予防してしまうと、子どもが経験することができなくなるため、学生の介入具合も考慮する必要がある。</p> <p>○最後のまとめ</p> <p>子どもとの接し方は、子どものために第一に考え、1人1人に合った支援や声かけを行うことが大切である。これからもメイクフレンドズの活動を通して経験し、学んでいきたいと思う。</p>
---	---	--

(6)班 テーマ「子どもとの接し方」 メンバー(ぶ一、のつち、ちい、どどん、くらつち、ちやい、もみじ)

<p>1.議題 話を聞かない子や活動に入りがたがらない子は、無理矢理活動させるのか</p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動に入りがたがらない子には、入りたいと思ってもらえらるような支援をすべき ・プランナーは保護者の意思などもあるため、やりたくなくても、できるようにさせなければならぬ い ・学校とは違うため、やらせなければならぬのかどうか難しい ・なぜやりたくないのか、理由を聞くことが大切(休憩時間を利用する、一対一での対応) <p>まとめ</p> <p>無理矢理感を出さないこと、また理由を聞くことが大切。</p> <p>2.議題 子どもに対する大学生の役割とは</p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生は教師でもないし、子どもと対等でもない ・学校ではないのに、見えない規則のようなものがあり、子どもは息苦しさを感じないのか ・指導する立場、“未熟な先生”のように接するべきなのか 	<ul style="list-style-type: none"> ・“微妙な立場”をうまく利用すべき →一人の話を親身になってじっくり聞いてあげられるのは大学生だからこそ(教師は全員の意見を聞かねばならないし、一般論を言わなければいけない場面が多い) ・ずっと指導する先生でいる必要はない ・一緒に活動する対等な立場でいることも大切 ・同じ目線に立ちすぎてもよくないこともある(調理→危険) ・プランナーと参加者は同じ子どもなのに、プランナーにだけ注意や指示をするのはおかしくないのか <p>→やってほしいことが違うから、区別してもよい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろんな立ち位置を試してみることができる良さがある ・班によっても立ち位置は違う →ホール：自然と役割分担(指示／一緒に活動) プランナー：会議か活動かにもよる 単発：班付(距離感を測りながら、安全面の配慮) <p>まとめ</p> <p>微妙な立場をうまく利用して、距離が近い大学生にしかできないことをすればよい</p> <p>3.議題 個性を伸ばしてあげるにはどうしたらよいか(プランナー)</p>	<p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほめる(ユーマも交えながら) ・早くその子らしさ(キアラ)が出るようにするには、仲良くなる必要がある、そのための環境づくりをしなければならぬ <p>まとめ</p> <p>個性を見つけてそれを活かせるような仕事を頼むことで自信につながり、個性が伸びることにつながる</p> <p>4.議題 子どもに対して、学生はどこまで自分をさらけ出すか</p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの頃、自分のことをさらけ出して話してくれる先生が好きた ・他の学生が、子どもの話を聞くことが多く、自分の自身のことは話していないのだから、自分のことは話してはいけないのかなと思っていた <p>まとめ</p> <p>学生も一人間なのだという意味でも、自身のこともさらけ出して話してよい。しかし、話す内容には留意すること。</p>
---	---	---

<p>1.議題 うるさい子への<u>注意の仕方</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入を聞いてくれないこともあったが、工夫して座って聞かせるということをした ・かまってほしいのではないかと思うため、うるさい子を相手にしない。相手にしないからこそちゃんとしていくのではないか ・単発でははじめの導入はうるさくはない。もしうるさくなくなったら裏方が子どもに注意する ・遠くから見ていた学生が注意をすればいいのではないか ・導入を学生と一緒に聞けば静かに聞いてくれるかもしれない ・うるさくしないように注意する前に注意をしなくて済む対応を考えることも大切 ・子どもと約束事を決めていたら注意がしやすい ・注意をする人としらない人の学生の役割とか人数のバランスとかが大切。子どもが何人にも同じような注意をされたら困る <p>まとめ</p> <p>うるさい子に対しては導入を座って聞いてもらったり学生と一緒に聞いたり工夫することで静かに聴いてもらえるのではないか。またそのような注意をしていないですむような対応をすることが大切である。注</p>	<p>意するときも学生みんなが注意するのではなく班内で注意する人数のバランスや役割も大切である。</p> <p>2.議題</p> <p>学生は先生という立場ではないがどこまで注意すればいいのか</p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暴言を注意していいのかということが疑問に思っている ・学生を殴る子は殴るということでもコミュニケーションをとっているのかもしれない ・自由時間に殴るとか暴言とかを注意しないのに活動で注意するのはおかしいのではないか ・注意するボードラインとしては活動・企画が中断したり周りに迷惑がかかっていたら注意をする ・普段はあまり注意をしないが危ないと思ったら注意をするようにしている ・自分が嫌だと思ったら注意をするようにしている理由としては自分と同じように嫌だと思っっている人がいるのではないかと思うから ・大人として暴力を注意してもいいと思う ・注意する前に自分自身が出来ているのかを考える必要がある ・子どもに対して注意するときにはなぜいけないのかという理由をつけるといいかもしれない 	<ul style="list-style-type: none"> ・注意の仕方は問題がある子個人に対してや全体的に注意するや、上級生の子に注意してもらおうというやりかたがある <p>まとめ</p> <p>注意について自分だったらどうするかと自分の尺度で想像してみても他の人と、どのように注意するかや他の人だったらどうするかということをお話してみよう</p> <p>注意するときには頭ごなしに注意するのではなくなぜ注意するのかを考え理由もつけて子どもに注意することが大切</p> <p>3.議題</p> <p><u>子どもの感情を見る方法</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かまってちゃんには注意しても学生に来る子で学生にただかまっただけではなく、他の可能性もあるかもしれない ・子どもの感情を見る方法としては、子どもの活動や行動を見る ・活動中に子どもが泣いたりしたらそこから子どもの気持ちを考える ・子どもの感情は学生自身が同じような経験をしたり周りの状況や様子から学生は知ることが出来る
--	--	--

<p>まとめ 子どもの感情を見る方法としては、子どもの活動や行動、表情、周りの状況や様子、自分自身の経験から学生は推測することが出来る。またかまっちゃんが注意しても学生のほうに来るのはかまっちゃんだけでなく、他の可能性もありうるということがある</p> <p>4. 議題 <u>いい支援とは</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協力しないと成り立たないようなゲームを取り入れて協力する機会を取り入れる環境や場をつくったり場面の想定をしてから声かけをすること ・ 仲良くする機会を作るなどの機会作り ・ 目的が「工夫」だったら工夫が出来るように場所を広くとったり選択肢を多くしたりする ・ 子どものことを想定して支援を考えることが大切 ・ 子どもが「いいな」と思える環境づくり <p>まとめ いい支援は間接的な環境づくりと直接的な声かけがある。子どものために環境を事前に作ることは大切だが、環境がすべてではない。学生の声かけも必要である。</p>	
---	--

<p>1. 議題 目的の意義 (なぜ立てるのか)</p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的は子どもの見たい姿に向かって活動を企画していく上で意見をまとめるための軸となるもの。 振り返りでもねらいを持って意図して活動しているので学びがある。 企画段階の子どもの姿と実際の子どもの姿が違うけど大きなテーマには合っている時どうすればいいのか分からない。 意図とは違うことでもプラスに捉えていい。 なんで違う姿が見られたのか逆算して原因を考えると次に生かせる。 目的が絶対的なものになり過ぎている。 目的にこだわら過ぎたくない。 「目的<見たい姿」を意識していくとよい。 振り返りで目的以外の姿も言える寛容さが大切。 何回分かをまとめて目的とし、活動ごとにはテーマを持たせるといいのではないか。 <p>まとめ</p> <p>「目的」は企画では軸となるものであり、振り返りではより深い学びをもたらしてくれる。しかし、「目的」だけにとらわれずに他の部分も振り返りで見えていく姿勢が重要である。</p>	<p>2. 議題 目的の設定 (主語はだれなのか)</p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> プランナーは子ども目線ではなくてはいけないが客観的な判断をするので学生の理想に近づけている。 単発はほとんどの場合押しつけである。 子ども主語にしても学生が振り返るので学生主語ではないか。 学生はサポート役だから子どもが主語ではないか。 学生が操っている感があるけど、実際は支援しているの子ども主語ではないか。 学生だと無理やり感がある。 内面的なもの (感じよう) と動作的なもの (伝えよう) で変わるのではないか。 目的を読んだだけで分かってもらえない言葉遣いも必要不可欠である。 根本は自然に子どもが活動し学生がサポートしていることではないか。 <p>まとめ</p> <p>「目的の主語」は学生でも子どもでもよい。日本語として違和感がないことが必要である。大切にすべきことは、「活動の主役は子どもであり、学生はサポート役」という意識を全員が統一して持っておくことである。</p>	<p>3. 議題 目的の達成 (達成は必要か)</p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 達成の判断が難しい。 部活みたいに「勝つことに全力。でも勝たなくてもよかったね」だから達成はしなくてもよい。 到達目標と達成目標。どこまで達成してなぜ達成できたのか。課程を重視していくべき。 振り返りで達成したかどうかを書かなければいけない感じがある。なぜ？を引き出して手段を振り返るべきでないか。 子ども一人一人違うから同じラインではなく一人一人に焦点を当てたい。 振り返りは次に生かすために、目的というポイントではなく広い視点で見るとよい。 learn by doing : やっているうちに分かってくる、試行錯誤で学ぶ <p>まとめ</p> <p>企画で目的を達成するために支援を考えていくことは必須である。しかし振り返りにおいて目的を達成できたのかという視点は必ずしも必要ない。一人一人の子どもにも焦点を当てて、どんな支援や手段でどんな行動を起こしたのかを振り返ることが重要である。結果ではなく課程を重視して振り返ることが学生の学びになる。</p>
--	---	--

<p>1.議題 <u>各班の目的の立て方</u> 意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単発班は子どもの見たい姿から班みんなで挙げていき、その見たい姿をもとに目的を決定していく。その後、目的にあった活動をつくっていく。 ・ホール班はまず、活動をたくさん挙げてもらって、そこから活動内容をまず決定させる。そしてその活動内で見ることができ、見たい子どもの姿を挙げ、目的を決定させる。(例外もある) ・プランナーは年間目標をもとに、年間目標にそって目的を立てていく。年間目標はプランナーの見たい姿、プランナーにどうなしてほしいかなどから、それを具体的に掘り下げて話し合い、決めていく。 	<p>る活動がしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに楽しい以外にも何かを得てほしい。達成感、協力、感謝など日頃体験できないことを体験できるように活動をしたい。(楽しいは前提?) ・楽しいを感じるにはいろんな方法がある。達成感から楽しいと感じる子どももいる。そのため、楽しい前提というよりも、いろんな活動をする中で結果的に楽しいと感じてくれる活動をしたい。 <p>まとめ</p> <p>みんなのしたい活動のなかでは、それぞれ楽しいの位置づけが違っていた。楽しいを最重要と考えたり、楽しい以外にも何かが必要という考えなどがあった。</p>	<p>ないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さい楽しいがたくさん活動中にちりばめられている活動と、最後に大きい楽しいがある活動では達成感の感じ方も違う。子どもによってどつちのを好むかも違うと思う。(メロンやマラソンなどを例にして話した) <p>まとめ</p> <p>達成感を得るためには活動に興味を持ってそれをして一生懸命してもらうことが必要なので、楽しいが必ず必要不可欠なのではないか。楽しいの感じ方も子どもによって違うので、その子どもにあった楽しいと思ってくれる活動をつくっていくべき。</p>
<p>まとめ</p> <p>各班で目的の立て方が違う。単発班は、目的→活動という順序でつくっていくのに対し、ホール班は活動→目的という順序でつくっている。</p> <p>2.議題 <u>みんなのしたい活動って何?</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動は最悪楽しければいい。見たい姿の達成した姿もみたいが、一番は子どもが楽しんでくれてい 	<p>3.議題 <u>達成感という目的を例に考える</u> 意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しくないけど、達成感を得られる活動はどうなのだろうか。ドミノの活動も並べるのはきつい(楽しくない)が、子どもたちは並べて最後にドミノを倒す場面に何かがある(楽しい、達成感?)と思っでドミノを並べている。つまり、並べる作業は楽しくないと思っでいないのではないか。→楽しいなしでは達成感を得ることはできないのでは 	<p>4.議題 <u>目的の達成をどうやって測る?</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的達成に関するアンケートをとってもそれが子どもたちの本音、本当におもっていることかどうかはわからない。そのため活動のなかで子ども達の姿を見て、目的達成を判断するしかないのでは? ・子どもたちの本音が聞き出せるような雰囲気をつくることが重要なのではないか。前の活動でくじでひいた質問に答える(楽しい度合いは何%ですか?など)という方法があり、子どもたちは答

えやすそうだったし、本音を言えている感じだった。

- ・子どもたちは形式張ったアンケートよりも雑談のようにラフな環境のほうが本音を出してくれているのではないか。

まとめ

目的達成を判断する姿を見るためには、子どもたちが意見を何気なく言えるラフな雰囲気が必要。そのようないい雰囲気を出すための手段を考えることが重要。

(3)班 テーマ「目的について」 メンバー(ぼんちゃん・のっち・まみお・まっち・ゆーみん)

<p>1.議題 目的の達成基準について</p> <p>意見 (単発)</p> <p>目的からみたい姿→場の設定→発言・姿→目的達成の確認 (プランナー)</p> <p>年間目標→年間目標から見たい姿→会議・活動ごとに年間目標から目的 →発言・姿→目的達成の確認 (ホール)</p> <ul style="list-style-type: none"> 方針をもとに活動を決め目的を立てる 活動中の子どもが発言を全体で取り上げ、目的達成の確認 いろいろな子がくるため、目的の設定が難しい 見たい姿もやんわりとしたものになる <p>まとめ</p> <p>活動を企画、実践し振り返りを行う。その中で目的が達成されていたの かを確認する。</p>	<p>2.議題 目的をどのように意識すればいいのか</p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 班長の運営次第 目的に沿った支援を活動中にちりばめる 活動と目的の往来が大切 <p>まとめ</p> <p>細かい活動を決めるときに、目的に立ち返って考えることで、企画・活動中に 目的を意識しやすくなる。 活動で目的を意識しやすくなっていれば、振り返りの時も達成の確認も行いや すい。</p>
---	---

<p>1.議題 <u>メイフレで何を得たか</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まだわからない。 ・子どもと関わる機会がある。(実践の機会・企画、実践、振り返り) ・子どもの様々な姿を見てくることが出来るので、子どもを予想することが出来る。 ・引き出しが増えた(アンケート方法、学年にあった問い方、教材)。 ・話し合いの進め方、意見の言い方。 ・人と協力出来るようになった(人を頼ることが出来る、仕事を振れるようになった)。 ・人との付き合い方(子ども、学生、大学の先生、公民館の先生、保護者)。 <p>まとめ</p> <p>子どもに関して以外にも多くのことを学んでいた。</p> <p>2.議題 <u>自分が変わったと思うところ</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めての企画では自分自身の視点で考えていたが、活動を経験してから子ども目線で考えられるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・以前は活動をただするので精一杯だったが、活動ごとに自分の目標を立てて臨めるようになった。 ・子どもの叱り方がわからなかったが、先輩がしていることを見たり、自分で実践してみたりして、自分なりの方法を見つけれられた。 ・子どものイメージが出てくるようになった。 <p>まとめ</p> <p>自分で考えていくことで自分を変えていけるし、変わったことにも気づくことが出来る。</p> <p>3.議題 <u>メイフレを続けている理由</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しいと思えるから。 ・人との関わりについて学べたから。 ・子どもが好きだから。 ・自分が得られたものを伝えたいと思ったから。 ・やめたいと思ったこともある。 →意見を上手く伝えられず、自信がなくなる。 →きつかった。 <p>まとめ</p> <p>続けている理由は人それぞれだった。</p>	<p>4.議題 <u>子どもから学んだこと</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに先入観をもってはいけない。 ・子どもの成長の早さは驚くほど早い。 ・子どもの可能性は無限大(学生の想像を超えていく)。 <p>まとめ</p> <p>子どもを決めつけない。</p> <p>5.議題 <u>新発見、再発見したこと</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気づかないうちに様々なことを身につけることが出来ていた。 ・上級生は何か力を身につけようと頑張っているばかりだと思っていたが自然と身についた力もあった。 ・子どもに関して以外の力も身につけていた。 ・目的をもって活動していくことが大切だということ。 <p>まとめ</p> <p>考えて振り返ることが大事。</p>
---	---	--

(5)班 テーマ「メイフレで学んだこと」 メンバー(あば・さりい・ローサ・すずりん・くらっち・なつめ)

<p>1. 議題 メイフレで大切にしたいこと、大切にしていること</p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもとの関係性が大切。 ・子どもの立場に立って考えることを大切にしたい。 ・ほめることを大切にしたい。 ・子ども一人一人に合った接し方を大切にしたい。 <p>まとめ</p> <p>子どもを褒めることで一番心を開いてくれる。子どもと関わることで自分が重要なので、この活動一つ一つを大切にします。</p>	<p>3. 議題 企画段階で学んだこと</p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先輩たちの意見の出し方。また、班のメンバー一人一人のバランスの良さ。 ・子どものことをよく考える。 ・子どものことを考えることも好きだが、メイフレにいる学生のことでも好きだから話し合いに行きたくなる。 <p>まとめ</p> <p>子どもも理解をすることが一番大切だが、学生理解をすることも大切である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの名前をたくさん呼ぶこと、周りの子どもたちも呼ぶようになった。 ・子どもの表情・様子を気にかけること。 ・イラストなど手作りのものに子どもは反応しやすいので、できるだけ手作りする。 <p>まとめ</p> <p>メイフレで経験したよかったこと・悪かったことは何かしら将来役に立ってくる。</p>
<p>2. 議題 今までメイフレで反省・成功したこと</p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りに目が行き届いていなかったこと。 ・言い方がきつかったことがあったこと。 ・先輩に頼ることができなかったこと。 <p>→ 頼ることも大切。自分一人で抱え込まない。</p> <p>まとめ</p> <p>メイフレの活動は子どもが楽しい・よかったと思えるような活動にしなければならぬ。逆に学生が楽しい・よかったと思うだけの活動ではない。</p>	<p>4. 議題 先生になつたときに活かしたいメイフレで学んだこと</p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなと協力すること。 <p>→ 一人だけで抱え込んではいけない。他の人にお願いをすることも大切。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見をあまりぶつからせない。 <p>→ 相手のことを考えることも大切。</p>	

(6)班 テーマ「メイフレで大切にしたいこと」

メンバー(オシム・ゆかちゃん・サウザー・しいちゃん・ひらつち・れつきー・ちやい)

<p>1.議題</p> <p><u>活動の軸となる目的以外に活動で大事にしていること</u></p> <p>と</p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの名前を覚えること。名前を呼んであげること ・子どもとの距離が縮まる。ホールは何度も来てくれる子がいるので、その子の様子も気にしている。 ・活動中の子どもの姿を観察すること。また、活動全体を広い視野で見ること。 →単発は子どもの見たい姿を要所所であげることが、あまりに限定しすぎると予想以上の姿が見えないことがある。子どもの発想力が発揮できるような工夫が必要だし、それを観察することも大切である。 ・子どもの名前を呼んだり、子どもといっぱい話したりすること。いっぱい話すことで子どもが心を開いてくれる。 →学生が名前を呼ぶことで、ほかの子も呼んでくれるように班の雰囲気良くなる。 →話すことで私たちが気づかないような家のこととか、今の気持ちを話してくれるようになる。 ・観察することで、子どものいやがること、気にしていることに気付く。どうゆう時に傷つきそうか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雰囲気大事にすること。子どもは大人をよく見ているから、学生間の雰囲気が悪いとそれが伝わってしまう。子どもには活動を楽しんでもらいたいで、学生間の問題を子どもの前に出さない。 ・こだわりを持つこと。企画活動をやるからにはこだわらなければいけない。 ・先生ほどえらくもなく、友達でもない大学生という微妙なポジションを理解して活動に臨む。 →先生に任せてもいい部分はあるのではないか。学生は話を聞いてあげてお兄ちゃん、おねえちゃんでもいいのではないか。 →指導者、同じ職員、大きな友達、様々な立ち位置になれる学生だからそこで見つけていくことが大事。 ・子どもの話を聞くこと。子どもの気持ちを決めつけないこと。学生が子どもはこう思っているだろうと決めつけると、間違った声掛けをしてしまうことがある。子どもの気持ちを大事にしたい。 ・安全面への配慮。私たちは子どもを預けてもらっている側だし、学生だけで成り立っているわけではないので安全面は最優先。 ・公民館の先生への感謝の気持ち。私たち学生はやらせていただいた側なので感謝の気持ちを忘れない。公民館の先生との連絡の大事さ。大人である公民館の先生との付き合いの中で学ぶ 	<p>ことがたくさんある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待つこと。子どもの考える時間をじっくり待つことで子どもが納得のいく選択をすることができると、時間に追われて急かしてしまいたくなるが、子どもの考えを最優先にしたい。 →子どもにじっくり考える時間を与えるために、タイムテーブルの時間配分にゆとりを持っておく。 →あまりにたくさんさんの選択肢があると子どもも迷いすぎて決めきれないことがある。子どもの学年や活動によって選択肢の幅を考える必要がある。 ・目的など深い話も大事だけど、子どもにどうやったら楽しんでもらえるかをもっと考えたい。 →企画中には根付めた目的についての話や、アイデアを出し合うような活発な話し合いの両方が大事。 ・子どもしていることにどんな理由があるのか理解できる関係性を築くこと。 ・いいところを見つけてあげたい。ダメなところがあってもその子のいいところを見つけてあげる。 →できない子を注意するのではなく、できる子をほめることで、ほかの子に気付いてもらおう。 <p>まとめ</p> <p>さまざま人の大切にしていることを、自分の活動に生かしていきたい。そして目標や意識を持って取り組むことでさまざまなことを吸収していきたい。</p>
--	--	--

<p>1.議題 <u>メイフレで大切にしたいこと</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先輩や同じ班の人、同じ学年の人たちとのつながりを大切にしている。 ・子どもとのつながりはもちろん学生同士のつながりも大切にしている。 ・子どもも学生も「楽しさ」を大切にしている。楽しさがあった「やろう」と思えるのではないかな。学生が楽しそうにすることで子どもも楽しくなると思うから話し合いから楽しくなるように心がけている。 ・話し合いを楽しくするために、1年生は入って突然目的の話をされても難しいため活動の選択肢をいくつか挙げておいて1年生をむかえ話し合いに入りやすくした。 ・活動で子どもが楽しいつて思えるような誰にも負けない班つきをする。 ・学生同士で大切にしていることは相手のことを認めること。 ・活動では子どもたちと笑顔で接したり、前で話したりするときも笑顔で話して楽しい雰囲気を作るようにしている。 	<p>まとめ</p> <p>メイフレで大切にしていることとしては、人とのつながりや子どもに「楽しい」と思ってもらえるような雰囲気作りや班付きをすること。また学生の話し合いから楽しくして学生も楽しめる活動にしたり、話し合いで相手のことを認めたりすることである。</p> <p>2.議題 <u>メイフレの「楽しさ」とは</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メイフレは生活リズムの1つだった。楽しいことは子どもたちとは趣味の話が出来てその引き出しも増えるため話が楽しかった。 ・ホールはリピーターも多いため子どもに対して親近感がわくし、成長が見られるためそれが楽しい。 ・学生の話は楽しいし、班長として自分の思い通りに話を進めることが出来たら楽しいと感じた。 ・運営する側としては学生の話し合いも楽しくして他の人が楽しいと思うように心がけた。 ・プランナーで1年を通して声かけや支援をして成長が見られるため1年を通して楽しい。 ・プランナーの1年の成長を見ることが出来ることも楽しいし、子どもに名前を覚えてもらって一緒に話したり遊んだりするのが楽しい。 	<p>まとめ</p> <p>子どもと接したり、子どもの成長を見たりすることや学生の話も楽しいと感じた。運営する側として話し合いがうまくいったときに楽しいと感じた。また班内の他の人が楽しいと感じるように心がけた。</p> <p>3.議題 <u>それぞれの班のよさ</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホールのよさ →プランナーみただけで常連さんの成長が見られる。 →活動がある程度自由に出来る。 →活動までの時間があまりなく目的の話は1週間で済ませるために重い話があまりない。 →五福公民館がアットホーム。 ・単発 →子どもたちが「やりたい」と思ってきてくれる。 →長い時間をかけて話し合いをしているために達成感がある →子どもたちが落ち着いているために導入がしやすい ・プランナーのよさ →たくさん話し合いがあるために班が仲良くなる。
--	---	--

<p>→1 年間を通して同じ子どもたちを見るので成長を見ることが出来て愛着がわく。</p> <p>→プランナー合宿やキャンプなど泊まりの活動がある。</p> <p>まとめ</p> <p>それぞれの班にいいところがある。</p> <p>メイフレっていいサークル。</p> <p>4.議題</p> <p><u>メイフレの改善点</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・メイフレ＝まじめ、楽しくないっていう外部のイメージを払拭したい。 <p>→自分たちが楽しいって思えるようになれば楽しいというイメージもつくのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初のメイフレについての説明と入った後のギャップが大きい。 <p>→1 年生が入った直後に難しい話題の話し合いを避ける。班の雰囲気を楽しくする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いでつまつたときに自分の班内だけでなく他の班の人に意見を求めてみて他の視点からの意見を聞けるようにしていきたい。 	<p>まとめ</p> <p>メイフレはまじめであるという外部からのイメージや入る前と入った後のギャップなど様々な改善点があるが、それをクリアにしていくことでもっといいサークルになる。</p>	
--	---	--

(8)班 テーマ「メイフレで大切にしたいこと、良いところ」 メンバー(らむ・たんたん・どどん・八木・もみじ・わかちゃん)

<p>1.議題 <u>メイフレに入った理由、続けている理由について</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none">・友だちが入る流れで入ったが思った以上に楽しい。・“考える” 生活を送っていなかつたため、新鮮。・子どもと関わると聞いて入ったが、裏方になるとなかなか関わることができない。・最初はなぜこんなことをしているのか、と思っていたが、子どもと会って、やり方がわかっていくうちに楽しくなった。・子どもの変化に驚いた。・メイフレばかりで狭くなってしまっている気がして、なぜ続けているのかわからないが、やめるつもりはない。・吸収できるものが多い。・やめる理由がない。・友だちがいて楽しい。・メイフレの人たちが好き。 <p>2.議題 <u>メイフレのやりがいとは</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none">・吸収していると感じる。・自分の成長を感じる。・活動が出来上がったときに達成感が得られる。	<ul style="list-style-type: none">・子どもと接することができる。・考え方の幅が広がる。 <p>3.議題 <u>メイフレで得たものとは</u></p> <p>意見</p> <ul style="list-style-type: none">・逃げずに考えるようになった。・自分の考えをもつて話し合いに参加することで成長できた。・メイフレを続けることで、大学生活でやり遂げたと言えることができそう。・発言することへの抵抗がなくなった。・いろんなことに気づけるようになった。 <p>まとめ</p> <p>班員の意見を聞いて、メイフレの良さややりがいについての「新発見・再発見」があった。メイフレを通して何かを得ることができるようになりたい。また、やってよかった、続けて良かったと思えるような活動をしていきたい。</p>
--	--

合同分科会の事後アンケート

○今回分科会を通して今後につながるような新発見・再発見はありましたか？

- 新たに発見したことは特になかった
- 2部では活動をつくるうえでの目的のあり方などを再認識できたと思う
- 一部の子どもとの接し方で支援には直接的と間接的な支援があるよね、と話をして環境づくり（間接的な支援）はやりやすいが活動当日の直接的な支援はなかなか難しいねとなった。自分たちの支援のおかげで子どもが目的にあるような感情をもったりしたかどうかはなかなか判断しにくいし、本当にその感情なのか？というのは決めつけないでいろんな人の意見を聞いて考えないといけないと気づいた
- 特になかった
- 新発見という点ではなかった
- 再発見は目的について話すことで行えた
- 活動→振り返り→達成の流れ（新発見）
- 活動と目的の行ったり来たりが大事だということ（再発見）
- 経験したことのない試みについて知ることができた。できる限り今後に生かしたい
- 一見するとその子の欠点になることでも見方を変えて有利に使える場面を考える姿勢を身につけていきたい
- みんなの話を聞いて、「確かに」と思うことはたくさんあった。1部でも2部でも新発見・再発見があったと思う
- 目線を合わせるだけでなく、角度も子どもを注意したり叱る際の重要な要素であることを初めて知ることができた
- 第一部では学生と子どもの距離感について他の人から良く意見を聞けて「なるほどな!」となった。“大学生”だからこそその子どもとの接し方があるんだというのがわかったし、最大限にいかした関わり方を考えて実践していこうと思った
- 分科会で他の人、他の班の意見や話を聞くことができ自分の気付かなかった視点や考え方を知ることができた
- メイフレで大切にしていることに関して「何が嫌いなのかを見ること」ということが心に残っている。「好きなこと」は見ていたが、自分にはない視点だった
- 普段考えられなかった考え方がたくさんあり、「何が嫌いなのかを見る」ことに関してはそういう考え方を今までもっていなかった。子どものことをより知るための方法を今後考えていきたい
- メイフレで大事にしていることの話で、先輩から「子どもの嫌がること、傷つけることを考えてできるだけ気をつける」という意見があった。今までは子どもにとってプラスなことばかり考えていたが、子どもの嫌がることに触れてしまったときは関係がくずれることもあるので今後は気を付けたいと思う
- 学年はもちろん、その人だからこそ感じているものもあって、4年間やってきたが確かにそうだなと新発見、再発見することばかりだった
- いろんな人と意見を交換して、子どもの関わり方やメイフレのいいところを改めて発見したり、気づいたりすることができた
- 他班の先輩や同級生とたくさん話せて刺激がたくさんありとても楽しかった。ナイヤの司会が新

発見だった。おつかれ！

- 毎回の活動ごとに自分なりの目標を立てて臨んでいきたいと改めて思った。班のみなさんが活動をするうえで大切にしていることをたくさん聞くことができ、自分の刺激にもなったのでこれからの活動にしっかり生かしていきたい
- 4年間やっても毎回新たな考えを聞けるのでよかった
- 先輩方や同学年の人がたくさん子どもたちを見てきたからこそそのお話を聞いてうれしかった。本当にありがとうございました
- 他班の方とお話するのはやはり新鮮で新たな気づきがあった
- 後輩がいろいろなことにこだわりをもっていることがわかった。また、接し方・大切にしたいことなど、いつもは意識していないことも考えている人がいて、新発見だった
- 4年間メイフレで子どもと関わっていても、後輩たちの経験から、新たな子どもに対する悩みやそれに対する対応策などを考えることができた。また実際に話してみて、自分がメイフレをやっていたら、と考えると成長できているところが結構でてきたので振り返ってよかった
- 接し方や学んだことを話す中でたくさんの意見や思いに触れることができた。その中でも、「自分の目標を決めて活動に臨んでいる」という意見があったが改めて学年が3年になった自分に置き換えて考えてみると忘れてしまっていた気持ちだなと感じた。今の自分がメイフレの活動に参加するにあたって何と目的・目標にするのかを最後の学年になるので考えていければいいなと感じた
- 1回目の子どもの接し方では叱るということについて詳しく答えを出すということができてスッキリした。2回目のメイフレで学んだことでは普段聞けない人の意見も聞いた
- これから活動で子どもと関わるときに役立つような話を聞くことができた。他の人の考えを聞くことで自分の考えの幅を広げることができた
- 一部ではみんなの怒り方（子どもへの）を聞くことができてこういう基準で怒るのかを聞くことができてとてもためになった。（再発見）2部では班ごとの目的の立て方やみんながどんな活動にしたいと思っているか、そしてその活動に近づくために目標をどう立てていけばいいかななどを学べてとてもよかった。（新発見）
- 1部では子どもの困った行動についての話をした。困った行動でも見方を変えれば生かせる行動に変えられることがわかった。2部では、目的について話をした。メイフレにできることは、まず楽しそうと思ってもらえるような企画、活動中の楽しみ、活動後に、来てよかったと思えるような支援をすることだと感じた
- 第一部では子どもの怒り方についての手順が大切だということを知った。「注意・しかる・怒る」の違いにも気づけた。第二部では、様々な「楽しむ」があり、それを達成するために目的を立てながらその中で支援がメイフレで学ぶことなんだと学んだ
- 新発見・再発見といういろいろな話ができ深められたかなと思う
- しかる基準は、子どもとの関わりの中でもルール化を通して作ることができる！目的が達成されたかは学生自身の経験とも照らし合わせることで見えることもある！がしかし、自己満にならないように！
- 子供との接し方については、子どもに一方的に怒ることはしないようにとは思っていたが子どもに「今何した？」「どうしないといけないかな？」などを聞いたりして子どもに考えてもらうことが大事だと学んだ。他にも、目的について、絶対的なものではなくて大切なのは学生の共通認

識であることを学んだ。どちらにおいても学生が一方的にならないことが大切だと思った

- 新発見・再発見として、子どもにとってどうなのかということをしかりと話し合い、振り返りを通して学んでいきたいと思った。子どもとの接し方や目的についても、子どものことを理解することにつながると思う
- プランナー班以外の班の人の意見をたくさん聞いて子どもの接し方も目的の捉え方も班や活動によって違うことがわかった。子どもの接し方においては一人一人の役割があること、目的については、目的は活動の軸として大切であること、しかし使われすぎるのはよくないということ再発見した
- 子供と話すとき、視線をあえて揃えないことも効果的であること
- 目的について自分と同じ違和感をもっている人がいること
- 子供と仲良くなるためには、活動以外のプライベートな話も大事だということ
- 視覚的なものの大切さ
- 導入やIBなど最初のつかみの大切さ
- マイナス部分が子どもにあっても、押さえつけるのではなく利用するという逆転の発想
- 子供への接し方について改めていろんな人と話ができて再確認したり、新しい考え方を発見することができた
- 学んだことについて話すことで、他の人と学んだことが自分の中で再確認するきっかけになったり、違う立場の経験から新しい発見をすることができた
- 注意の仕方など、自分のしたことのない方法を新発見することができた。また、自分のしてきたことや、これから続けたいことも再確認できたのでとても有意義な分科会だった
- いろいろな人が様々なことを考えて活動に取り組んでいることがわかった。これからの活動を丁寧に取り組みたいと思った。子どもたちの間で今はやっていることなどを知り、子どもたちに話題を振るきっかけにしたいと思った。そして何より子どもたちが楽しい活動を作っていきたいと思った
- 自分が先生になったときに活かそうなことを、いろんな視点からアイデアを頂いた。特に子どものことだけでなく対学生へのアイデアや接し方、考え方などを考えられ、仲間を大切にしていかなければならないと思った
- 落ち着かない子に対して、ルール作りをする。そのルールを思い出させながら活動をすることで落ち着いて活動をすることができたという意見を聞いた。(新発見)
- もし怒ってしまったとしても、怒ることよりも怒ったあとのフォローが大切ということ。切り替えをしかりと大切にすること。(再発見)
- 普段は他の班の方々と話す機会があまりないので今日の分科会で様々な意見を聞くことができ、新しい考え方や視点を見出すことができた

○今回の分科会で自分が話したい・考えたいことを伝えることができましたか？

- 司会の方々が事前に出ていた意見を全て拾ってくださったので、気になったことについて話し合うことができた
- 自分がメイフレで悩んでいたことを先輩たちと一緒に考えてもらうことができ、すごく貴重な機会になった
- 二部では先輩たちや後輩たちがメイフレでどのように感じているのかということ分科会で話す

ことによって知ることができた

- 一部も二部もすごく話しやすい雰囲気だった
- 他の人も同じ悩みを持ってたりして、「あるある!」「それな」的な感じになって嬉しかった
- 自分が話したいことも話せたし、いろんな人の意見を聞くことができたのでとても参考になった
- 注意の仕方や様々な子に対する対応など、これからにつながることを話せた。みんなから聞いた意見や考えの良い所をとりいれてこれからは生かしていけたらなぁと思う
- 司会をしてくれたやぎとあば、書記のすずりんがみんなの意見を聞いてくれるような雰囲気作りをしてくれたので話しやすかったです! ありがとう
- 他の人の実体験を交えた話が返ってきて想像とかもしやすかった
- 一回目は自分だけアウェイな議題でした。でも違うことを聞けて良かったです
- 二回目は楽しいくらい深く話せました
- 自分が聞きたかった子どもとの接し方をたくさんの人に考えてもらっただけでなく、その他のたくさんの意見を聞いてよかった
- 今回の分科会では、テーマを絞って話し合いをすることができるので、エピソードや意見を共有し学ぶことができた
- 自分がもやもやしていたことを大いに話し合い、たくさんの意見を聞くことができた
- 話せたが二部はもう少し時間がほしかった
- 共通の話題を話すことで「あ、それ自分も思ってた!!」と思うような内容が頭の引き出しから出せたのでよかった。でも二部の時間がもうちょっとほしかった。まだあたまの中が荒れている気がする
- 一年間で経験したことは少なかったかもしれないけど、子どもとの悩みなどを共有して、先輩方が分かりやすく教えてくださったのでスッキリしました
- 子供の内面についての目的について同じような悩みや様々な考えをもつ人が集まっていたので、意見を深めることができて良かったです
- 自分が話したいことかどうかはわからなかったが、他の人が出した話題とかも組み合わせさせて、自分が話したいことよりも深い話ができたと感じた
- 自分の話したいことを話し合うことができた
- 他の人の考えを聞く機会はあまりないのでいい経験になった
- 自分が話したいことは話せたと思う。さらに他の人がどんなことを考えたいかも知ることができてよかったと思う
- はい。ただ、思った以上に「学んだこと」は話しにくかった
- 言葉に出すことで自分の考えをまとめることができた
- 後輩に少しでも何か伝えられたなら良かったです!
- たくさん話ことができました! 満足です
- できました
- みんなの考えや話が面白いので良かったです
- たくさん話すことができた。班のみなさんの意見を聞くことができ、さまざまな角度から考えることができた
- 自分の話したいテーマに近い人たちとお話することができたので、今すごく満足しています!
- 司会の方が話を振ってくれたり、明るい雰囲気のできたので、とても話やすかったです!

- 飛び入りだったので、これを話したいと思っていたわけではないけど、とてもためになる話がたくさんできた。よかったです
- できました
- 話すことができた。今後は今日の会を生かして活動をしていきたい
- 一部では、司会というプレッシャーであまり話すことができず、自分の未熟さを痛感しましたが、先輩方の意見を聞いてとても勉強になりました。思っていることを話すことができ、他の人もうなずいたり、相槌をしてくれたので話しやすかった
- できた
- メイフレのことをメンバーがどんなふうにも思っているのか聞いてみたかったのですが、みなさん独自に考えを持っていて自分のやる気にもつながった気がします
- 様々な意見を聞くことができました。しかし、自分の意見を積極的に発信することはできなかったかなと思う
- 話したいこと、聞きたいことをすることができた
- できた
- あまりできなかったです。司会の立ち位置って微妙ですね
- 支援として、相手にしないことをよくするのですがその支援がどうなのかを話すことができました
- 司会の立場的に…第一部では“子どもとの接し方について”ということだったので、広く浅くなってしまい分科会ではなかったかなあと思いました。みんなの聞きたいこと、話したいことに触れることはしたけど深められなかったです
- 一部・二部とも話すことを事前にあげていたので自分の話したいことをみんなで考えることができた
- 話したい、考えたいことをみんなで話すことはできたと思う。ただ一部では今何を話しているんだろう？と思う場面がありました

○感想（要望などもあれば）を自由にどうぞ！

- 一部ではテーマが広すぎたのでは？と思いました。それぞれ悩みは違うので焦点を絞っていただけなら良かったと思います。ただ、定例会にずっと行けず、アンケートに答えていなかったので班決めがやりづらかっただろうなと思います。ごめんなさい。分科会委員の皆様、お疲れ様でした
- 普段話せないメンバーと話し合いができてよかったです
- 久しぶりに熱いお話をして、聞いて楽しかったです
- 一部はテーマが広くて広く浅くな話し合いになってしまいました。二部は少し掘り下げて意見が聞けました
- 一年生が想像以上に意見を言ってくれていて驚いた
- 一年生もたくさんいい意見を言ってくれて、話しやすい雰囲気でもとてもよかったです。分科会委員のみなさんお疲れ様でした
- 他班、他学年の人と話し合う機会があまりないのでこのような機会にありがたみを感じるとともに大切にしたいと思いました
- ものすごく有意義な時間と話し合いでした。自分が何かを発言をすることで、自分で考えていることを自分でまた整理できたし他の方が考えていることを聞くことで、自分の考えの幅を広げる

ことができたと思います。ありがとうございました

- 今までありがとうございました
- 先輩方の意見も後輩の話も聞くことができ、自分の教育観が深まった。司会の人と書記の打ち合わせが少しでもあったらいいと思う。楽しかったです
- お疲れ様でした。久しぶりにメイフレのみんなと話せてすごく楽しかったし、みんなよく考えてすごいなと思いました。ありがとうございました
- 分科会お疲れ様でした。とても楽しい分科会でした。ありがとうございました
- お疲れ様でした。第一部はオシムさん、第二部はナイヤが司会をしてくださいましたがどちらも明るく、でも真剣な話し合いでとても充実した時間を過ごせました。分科会委員さん、企画、運営本当にお疲れ様でした。ありがとうございました
- 分科会の企画、運営本当にありがとうございました。毎回分科会で本当に勉強になるなぁと実感しています。今回話し合いから得られたものを絶対にこれからの活動に活かしていきます。本当にありがとうございました
- 分科会委員のみなさん、お疲れ様でした
- また、ぜひお願いします
- メイフレが今後よりよくなるための新しい取り組みなどを話し合うことができました
- 一年生が司会を頑張っていた。もっと作戦をたてて取り組めれば、一年生の司会への不安を取り除けたのでは？
- 最後の分科会、楽しくお話することができました。企画大変だったけどお疲れ様でした
- 分科会委員のみなさん、まずは今回の分科会の企画、運営お疲れ様でした。やはり、自分以外の人の意見や思いに触れることは面白く、とくに一年生の意見には気づかされたりすることが多く、今の自分に改めていかなければならないことがあることを強く感じることもできたのではないかと思います。ありがとうございました！
- ゆったりして楽しかったです
- 楽しかったです。ありがとうございました
- きよまささんやっぱすごいです。メロンの話が楽しかったです。(2部の2班)
- もっと時間がほしいなと思うくらいあっという間でした。お疲れ様です！
- 真面目な話の中にもたくさん笑う場面があって楽しく、時間がすぎるのが早かったです。分科会委員さんの司会進行がとにかく良く、話しやすかったです！ありがとうございました
- メイフレ楽しいなと思えました。一つのことについていっぱい話し合える存在がいるっていいですね！
- 一部も二部もとっても話やすい雰囲気でした。今回、“まとめ”を意識していたのが良かったです。いつも話しばなしで迷走しがちなので。企画ありがとうございました
- 自分の班だけにとどまらず、他班さんが普段どんなことを考えて活動しているのかなどいろんな意見が聞けて本当に勉強になりました。これからもこういう時間を大切にしていきたいです。ありがとうございました
- 分科会は、他班の人と意見を交わす場としても子ども理解をより深めるためにも貴重な時間となりました
- とても楽しく、またいろいろな角度からの意見も聞くことができよかったです。ありがとうございました

- 一年生がたくさん話してくれるのが嬉しかったです！とってもいい雰囲気だと思いました
- 先輩方の進行がとっても良くて楽しくも学べる分科会になりました！いろんなエピソードを交えた話のできたので今後に生かせる糧としたいです
- 分科会を通して、1、2年生の成長を感じることができて、とっても嬉しかったです。すてきな機会を設けてくれた分科会のみなさんに感謝です。ありがとうございました！お疲れ様です
- すごく司会が下手だったけど、班のみなさんに支えられて頑張れました。とても有意義で楽しい分科会でした
- 普段一緒にメイフレの活動を行っている人たちの考えなどを聞く機会はあまりないので今回このような分科会ができてよかったです
- 今回も面白い分科会を企画してくださって本当にありがとうございました。4年生なのにあまり気の利いたことを言えずごめんなさい。話し合いは、各々のポジションがあり、キャラクターがあって成り立つし、形を変えていきますね。「今」できる話し合いを大切に味わってメイフレを楽しんでください
- どちらの班もすごくほっこりしていて、話し合いもゆっくり進めてもらえたので筆記をしやすかったです。こういう機会にたくさんの人と話せるので、すごくいい機会になりました！
- 長時間にわたる話し合いで大変そうだなと思っていましたが、中身の濃い話し合いをすることができました。とても充実した時間を過ごすことができてよかったです。今後に活かしていこうと思いました



Ⅲ. 教育実践総合センター教員からのメッセージ



学び (learning)

教育実践総合センター 教授 中山 玄 三

メイクフレンズでは、平成26年度の方針として、子ども理解に対する新たな引き出しや様々な視点をもつことで子ども理解の幅を拡げ深めるという「学びの姿勢」と、学生どうしの交流を通して様々な意見を尊重し肯定的に受け入れるという「歩み寄り」が設定されていました。さて、この「学び」と「協働」の2つは、互いにどのような関係になっているのでしょうか。以下のように、整理してみてもいいでしょうか。

まず、「学び」とは、体験を通して見方・考え方・行動の仕方が変容するということです。メイクフレ流にいうと、「子どもとかかわる活動を通して、子どもの行動やその背後にある気持ちを学生が受けとめるときの見方・考え方が、以前と比べて変わること、それに伴って、子どもとかかわり方（子どもの側に立った企画、場づくり・仕組むこと、支援、声掛け・インタビューなど）も、以前と比べて変わること」ということになるのでしょうか。これが、「何を学ぶのか」の「何を」の学ぶ内容（learning what）に当たるところです。午前の部のシンポジウムの活動報告では、顕著に表出した観察可能な子どもの「行動」を中心とした、子ども理解の内容が数多く見受けられましたが、子どもの内面にある「気持ちや感情」をくみ取っていくことの難しさが課題として残りました。

次に、「どのように学ぶのか」の「どのように」の学ぶ方法（learning how）については、体験、メイクフレ流にいうと、「子どもとかかわる活動を通して、子どもから学ぶ」、そして、「振り返る活動を通して、学生どうしの交流によって互いに学ぶ」＝「協働」ということになるのでしょうか。他者と「協働」して学ぶ価値は、①情報の量の多さと質の多様さ、②異なる視点や異なる考え方、③相手意識・仲間意識・協力などのメリットを最大限に有効に活用することで、「学び」の深化・拡充が期待できるということでしょう。協働による学びの深化・拡充という点については、午後の部の学生自主企画分科会での意見交換の成果に期待したいと思います。

最後に、「なぜ・何のために学ぶのか」について、UNESCO（国連教育科学文化機関）は、1) 知識を獲得するため（Learning to know）、2) 物事を成就するため（Learning to do）、3) 自他共に生きるため（Learning to live together）、4) 理想を実現するため（Learning to be）の4つを挙げ、生涯にわたって学び続けること（Learning throughout life）が大切であるといっています。メイクフレンズの学生の皆さんには、子どもとかかわる活動を通して、子どもの内面にある気持ちを理解できるようになるために、自ら学び続ける意義・価値を、この機会に是非とも見い出していきたいものです。

私も元気になりました！（14年度）

教育実践総合センター 吉田道雄

昨年で定年退職しましたが、「シニア教授」という立場から、皆さんと関わりを持たせていただきました。今年は「五福ホール班」、「大江プランナー班」、そして「中央単発班」の活動に参加することができました。「託麻単発班」と「東部プランナー班」は残念ながら日程の都合が付かず、出かけることができませんでした。ともあれ、各班での「子どもたちとの関わり」はすばらしく生き生きしていました。もうずっと以前から皆さんの活動ぶりには感心もし、さらに感動していました。そして、今回も感動とともに楽しい時間を過ごさせていただきました。

「五福ホール班」の活動では、相当程度に「元気」のいい子がいて、プロの教師でもかなりむずかしい対応を迫られる状況もありましたね。それをきちんと克服する皆さんの姿を目の当たりにしました。それを見ながら「いいなあ、うまいなあ」と思っていました。ホール全体に歓声が響き渡りましたね。

「中央単発班」では、私自身が「ハンバーガづくり」のノウハウを身につけました。何よりも保護者の皆さんが、子どもたちのすばらしい力を発見されたと思います。私も「わが家で作ってみようか」という気持ちになりました。ただし、その後、実践はしていませんが…。

「大江プランナー班」も、いろんな個性のある子どもたちが、それぞれユニークな意見を出しているのを楽しみました。こうした活動のなかで「子どもたちは『リーダーシップ』を身につけているんだ」と思って、嬉しくもなりました。

年度のまとめになる「シンポジウム」もすばらしかったですね。その内容のレベルが高いことはいつものことです。それに加えて、今年はスケジュールどおりの進行で、まるで放送局の番組並みに予定時間にバッチリ終わりましたね。これもまた、大いなる感動です。

また、次の年度も同じようなすばらしい体験ができることを楽しみにしています。フレンドシップ事業がスタートしたのは、1997年度ですから、すでに18年が経過しました。いま、選挙権も18歳にしようかという時代です。次は「成人」を目指して前進しましょう。

平成26年度フレンドシップ事業シンポジウムに参加して思うこと

教育実践センター 特任教授 長 濱 茂 喜

この1年、毎月1度の定例会への出席と2度の公民館での実際の活動の参観を通して、メイクフレンズの活動をじっくり拝見してきました。学生の皆さんの熱心に活動する姿と、子どもたちの生き生きとした活動の様子を参観し、毎回感動の連続でした。

今回のシンポジウムは、メイクフレンズの学生の皆さんにとって、1年間の活動の総決算であったと思います。活動の実施報告では、5つの班の活動の報告がありました。活動のポイントを絞りプレゼンを活用し、分かりやすく報告してくれました。子どもたちの生き生きと活動している姿が印象的でした。

また、このシンポジウムには、教育学部の先生方はもちろん、熊本県教育庁社会教育課長様はじめ県、市から多くの関係者の方も出席をされていました。そういう中で活動の報告をすることは、メイクフレンズの活動のすばらしさを広く知って頂くうえでも、とても意義のあることだと思っています。活動のすばらしさを十分認識して頂いたのではないのでしょうか。

私は大学に勤務する前に、メイクフレンズの活動はすばらしい、活動している学生さんもすばらしいという声を多く聞いていました。1年間を振り返って、私の想像以上に一生懸命活動をしている学生の皆さんの姿を目の当たりにして、そのことを再確認したところです。学生の皆さんにとっては、「子ども理解」はもちろんですが、「事前の計画の大事さ」「協働して取り組むことの大切さ」等、メイクフレンズの活動を通して得るものも多くあったのではないのでしょうか。また、活動する中では、いろいろと苦労すること、試行錯誤することもあったと思います。活動の中でそのような苦労した経験がとても大事だと思っています。皆さんがこの活動で得たものが、将来教員になったとき絶対に役立つと思います。自信を持って下さい。

最後に、メイクフレンズの活動が益々充実していくことを願っています。

2014（平成26）年度 熊本大学教育学部
フレンドシップ事業実施・成果報告書

2015（平成27）年3月31日

編集・発行 熊本大学教育学部附属教育実践総合センター
〒860-0081 熊本市中央区京町本丁5番12号
TEL(096)325-3282 FAX(096)352-3468

印 刷 かもめ印刷